

中野区 ヤングケアラー実態調査 (子どもの生活についてのアンケート)

報告書

令和6年3月

中野区



目次

【本調査について】

- 本調査の概要について 3
- 調査方式・調査対象・回答数（率）について 4
- 調査に関する留意点、および結果の集計・分析に係る前提と注意点 5

【回答者の属性と生活状況】

- 回答した中野区の小学生の基本情報 7
- 回答した中野区の小学生の学校への通学状況 8
- 回答した中野区の小学生の悩んでいることや困っていることについて 9
- 回答した中野区の中学生の基本情報 10
- 回答した中野区の中学生の学校への通学状況 11
- 回答した中野区の中学生の悩んでいることや困っていることについて 12
- 回答した中野区の高校生世代の基本情報 13
- 回答した中野区の高校生世代の学校・職場への通学・通勤状況 14
- 回答した中野区の高校生世代の悩んでいることや困っていることについて 15

【お世話とヤングケアラーについて】

- お世話をしている子どもの割合 17
- お世話をしている小学生のお世話の相手 18
- お世話をしている小学生のお世話の内容 19
- お世話をしている中学生のお世話の相手 20
- お世話をしている中学生のお世話の内容 21
- お世話をしている高校生世代のお世話の相手 22
- お世話をしている高校生世代のお世話の内容 23
- 小学生のお世話の状況（お世話を始めた年齢・頻度・時間・影響） 24
- 中学生のお世話の状況（お世話を始めた年齢・頻度・時間・影響） 25
- 高校生世代のお世話の状況（お世話を始めた年齢・頻度・時間・影響） 26
- 小学生のお世話による生活への影響と感じている大変さ 27
- 中学生のお世話による生活への影響と感じている大変さ 28

- 高校生世代のお世話による生活への影響と感じている大変さ 29
- 小学生のお世話についての相談状況 30
- 中学生のお世話についての相談状況 31
- 高校生世代のお世話についての相談状況 32
- お世話をしている小学生の求める助けや支援・希望する相談方法 33
- お世話をしている中学生の求める助けや支援・希望する相談方法 34
- お世話をしている高校生世代の求める助けや支援・希望する相談方法 35
- ヤングケアラーにあてはまるか※中学生と高校生世代のみに質問 36
- ヤングケアラーの認知度と認知経路※中学生と高校生世代のみに質問 37

【自由記述集計】

- 自由記述の集計について 39
- 小学生の自由記述のキーワードとキーセンテンスによる分類 40
- 中学生の自由記述のキーワードとキーセンテンスによる分類 41
- 高校生世代の自由記述のキーワードとキーセンテンスによる分類 42

【調査結果とりまとめ】

- ヤングケアラーと思われる子どもについて① 44
- ヤングケアラーと思われる子どもについて② 45
- 「お世話している」＝「ヤングケアラー」ではない可能性について 46
- 中学生と高校生世代の「ヤングケアラー」の認知度について 47
- 子どもの成長に伴い「お手伝い」が「お世話」となる可能性について 48
- お世話をしている子どもの世帯状況と健康状態について 49
- 学校・職場への「出欠」「遅刻」「早退」への影響について 50
- お世話をしている子どもの学校や職場での生活への影響について 51
- お世話をしている子どもの悩みや困りごとについて 52
- おわりに 53

本調査について

■ 本調査の概要について

調査の背景と目的

国の調査により、ヤングケアラー（家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなど、大人が担うような責任を担っている子ども）が、小学校6年生の15人に1人、中学2年生の17人に1人、全日制高校2年生の24人に1人いることが明らかとなった。

ヤングケアラーといわれる子どもたちは、友人関係の希薄化、また不登校や、進学や就職を断念するなどの問題が生じやすく、早急な対応が必要となる。

国は令和4年度から3年間をヤングケアラー支援の集中取り組み期間としており、本区でも令和5年4月に地域における支援者連携のネットワークを構築し、連携のあり方や具体的な取組の検討を進めるため、中野区地域包括ケア推進会議に「ヤングケアラー支援部会」を設置した。

また、令和5年8月より、学校をはじめとする関係機関、地域団体の方からのヤングケアラーに関するあらゆる相談に対し助言を行うとともに、必要に応じて関係機関等と連携し、適切な支援につなぐ役割を担う「ヤングケアラーコーディネーター」を区に配置した。

区内の潜在化しやすいヤングケアラーの子どもたちの実態把握と効果的な支援方法を検討するため、アンケート調査による「ヤングケアラー実態調査」を実施し、その結果を基に、区の状況と傾向を捉えるとともに、課題の整理や効果的な支援を検討することとなった。

調査の実施

【実施主体】

中野区

【実態調査に関する事務局】

中野区地域支えあい推進部 地域包括ケア推進課

【ヤングケアラー実態調査の委託】

日本コンサルタントシステム株式会社（JCS）

委託内容：アンケートに関する文書作成

アンケートフォームの作成

回答結果について集計・原因分析・報告書作成など

調査期間

◇区立小学校4年生から6年生までの全児童

および区立中学校全生徒

⇒

令和5年10月2日（月曜日）から

令和5年10月31日（火曜日）まで

◇区内在住の高校生世代

（平成17年4月2日～平成20年4月1日生まれ）の方

⇒

令和5年11月1日（水曜日）から

令和5年11月30日（木曜日）まで

■ 調査方式・調査対象・回答数（率）について

【調査方式】 無記名式Webアンケート

【対象1】 区立小学校4年生～6年生

対象数 5,234人 有効回答数 2,406人 有効回答率 46.0%

【対象2】 区立中学校1年生～3年生

対象数 3,548人 有効回答数 2,626人 有効回答率 74.0%

【対象3】 区内在住の高校生世代
(15歳～18歳)

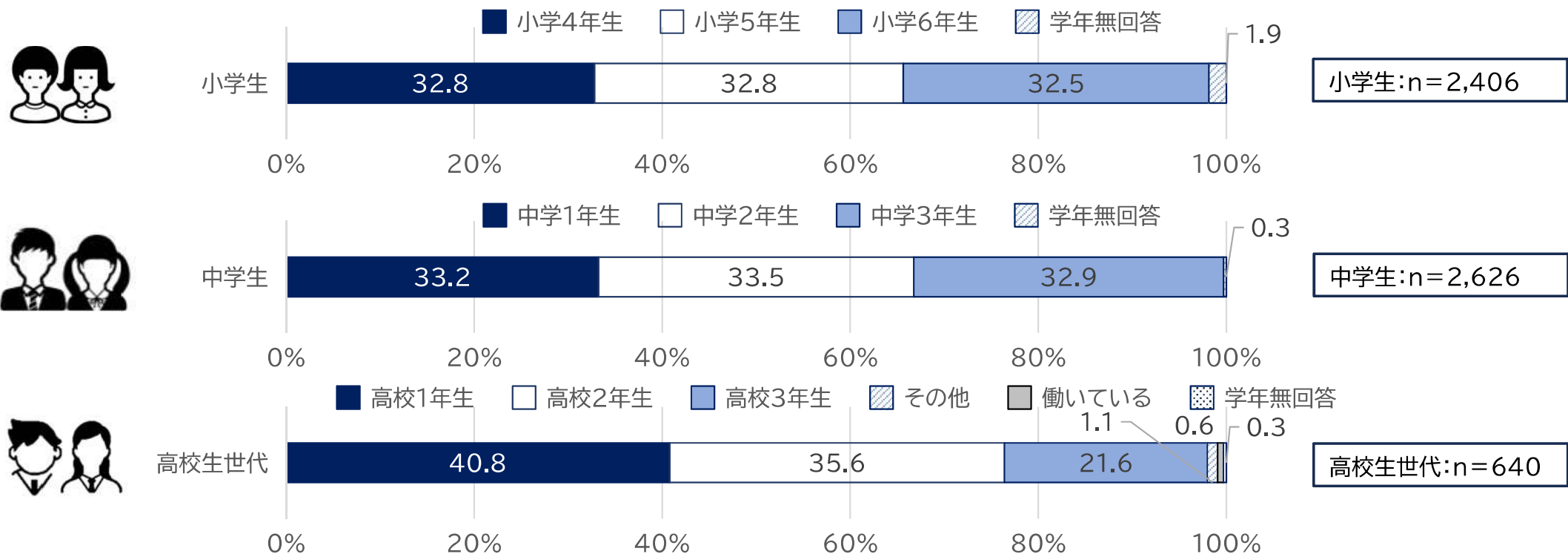
対象数 5,258人 有効回答数 640人 有効回答率 12.2%

【調査詳細】

- ◇小中学生 : 児童・生徒へアンケート調査を案内。教育用タブレットパソコンを活用し、Webアンケートフォームから子ども自身が回答
- ◇高校生世代 : 郵送にて配布した資料から二次元バーコードまたはURLアドレスを読み込み、各自スマートフォン、パソコンなどで回答

【回答者の学年の割合】

単位:%



■ 調査に関する留意点、および結果の集計・分析に係る前提と注意点

調査に関する留意点

学校での調査対象者への依頼および調査資料の送付にあたっては、子どもに家族や家庭内の様子について尋ねる内容も含まれることから、中野区より対象者とその保護者へ、アンケート調査の依頼文を別途作成した。その中で、本アンケートが「学校や家庭での生活の中で抱える悩みや困りごとなどを把握することで、その解決に必要な支援策を検討するため」に必要なアンケート調査であることを示し、「子どもの生活についてのアンケート」として実施した。

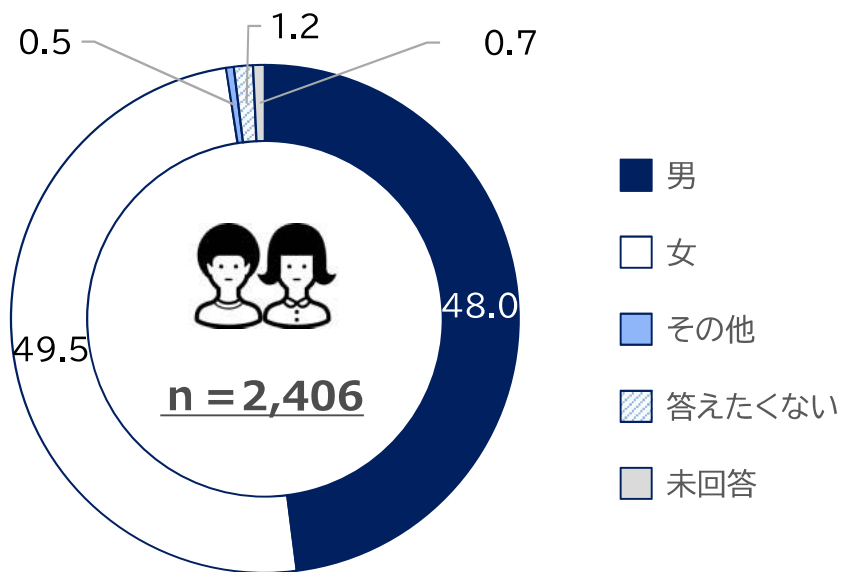
結果の集計・分析に係る前提と注意点

- ◇回答の比率（％）について「選択した回答の割合」は、小数点第2位を四捨五入した値を表記しているため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ）合計が100.0%にならない場合がある
- ◇回答の比率（％）について「選択した人数の割合」は、その質問の回答者数を基礎として算出しているため、複数回答形式の設問はすべての回答の比率を合計すると、100.0%を超える場合がある
- ◇図表内の「n＝」はその設問についての集計対象件数を示している
- ◇サンプルサイズ（抽出したデータの個数）が少ない場合には、1サンプルあたりの重みが大きく、比率が変動しやすいため、全体の状況を示しているとは限らない点において、結果の利用には注意が必要である
- ◇「お世話」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをすることを示す
- ◇「お世話をしている家族が『いる』」と回答した児童・生徒がヤングケアラーに該当するとは限らない
- ◇比較する全国調査は、小学生「令和4年3月 ヤングケアラーの実態に関する調査研究（日本総合研究所）」、中高生「令和3年3月ヤングケアラーの実態に関する調査研究（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）」とする
- ◇全国調査との比較において、選択肢の一部変更や中野区独自の選択肢追加がある為、単純比較ができない設問がある

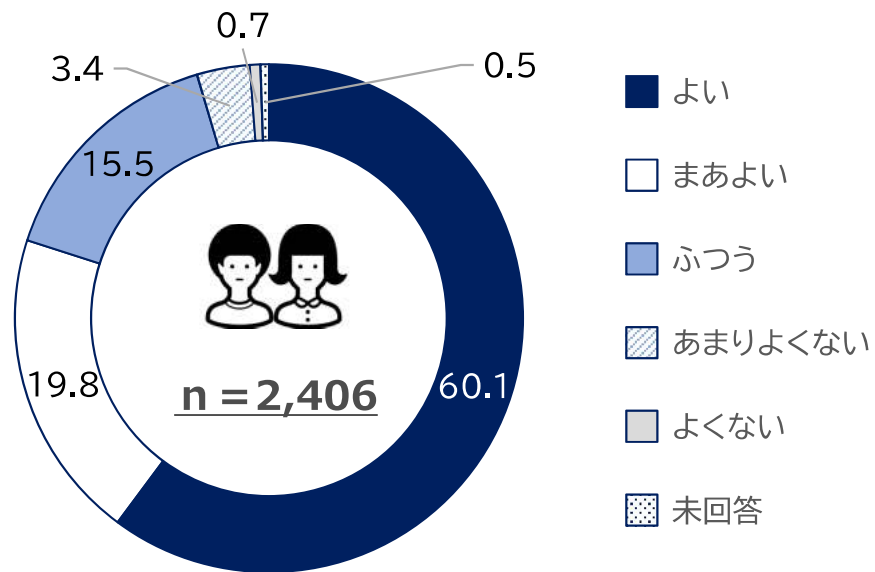
回答者の属性と生活状況

■ 回答した中野区の小学生の基本情報

【性別】 単位：%

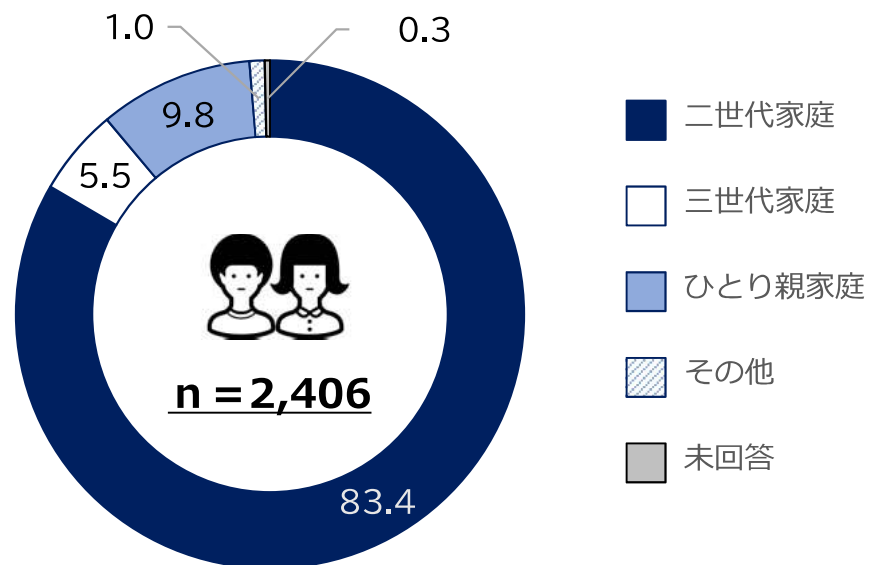
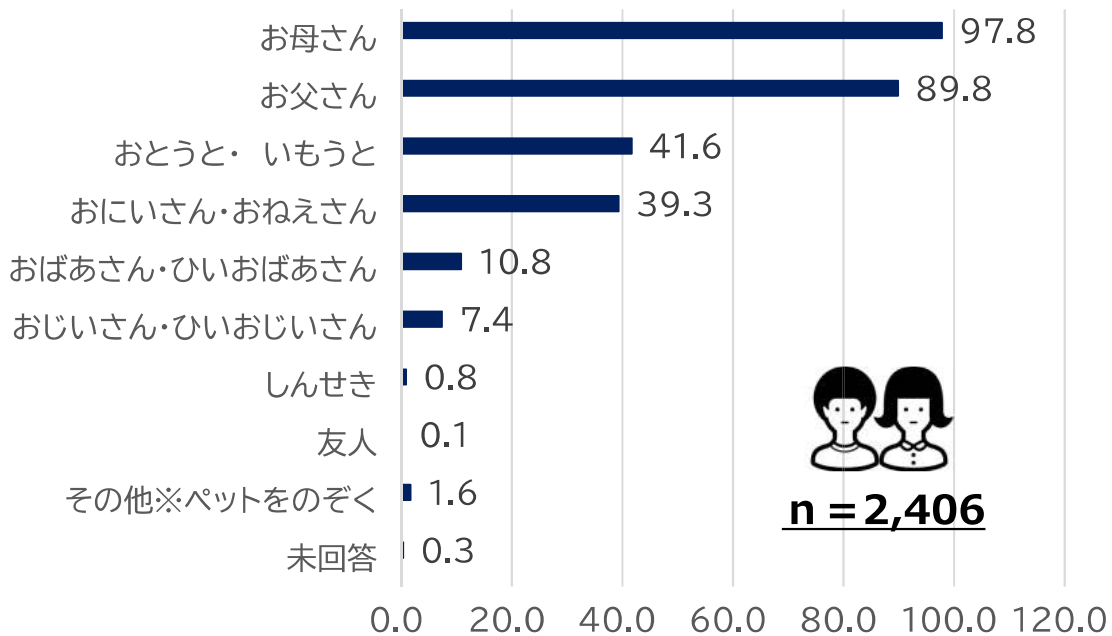


【健康状態】 単位：%



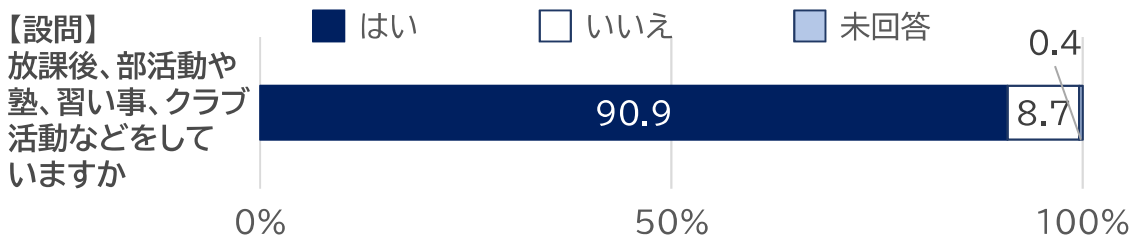
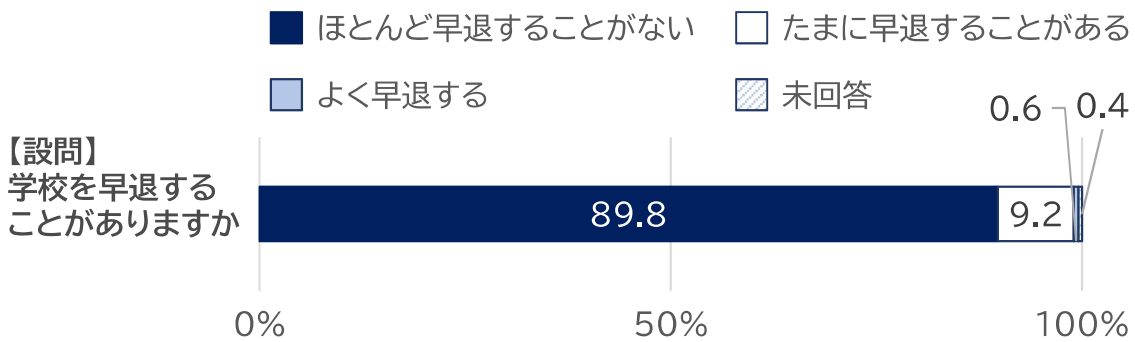
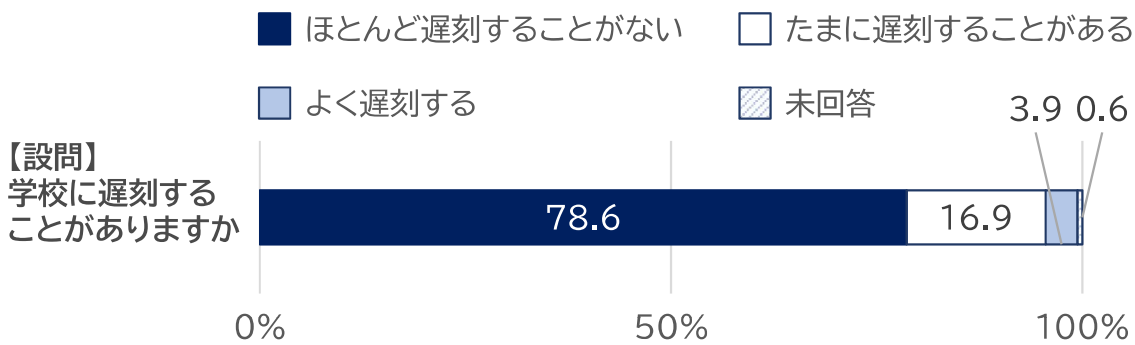
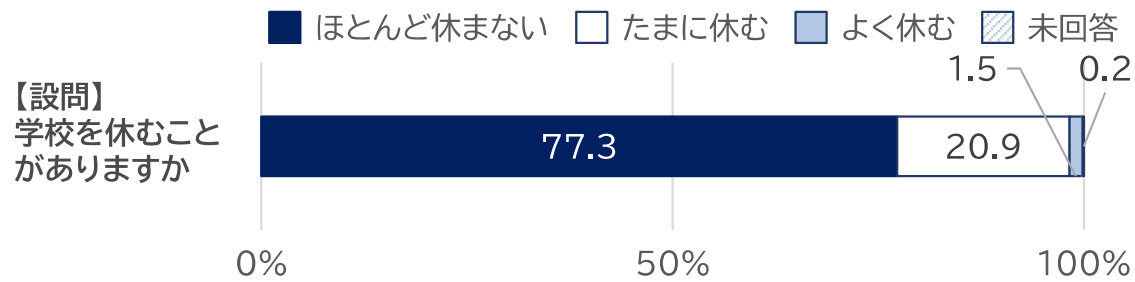
【家族構成】

単位：%



■ 回答した中野区の小学生の学校への通学状況

ふだんの学校生活について n=2,406

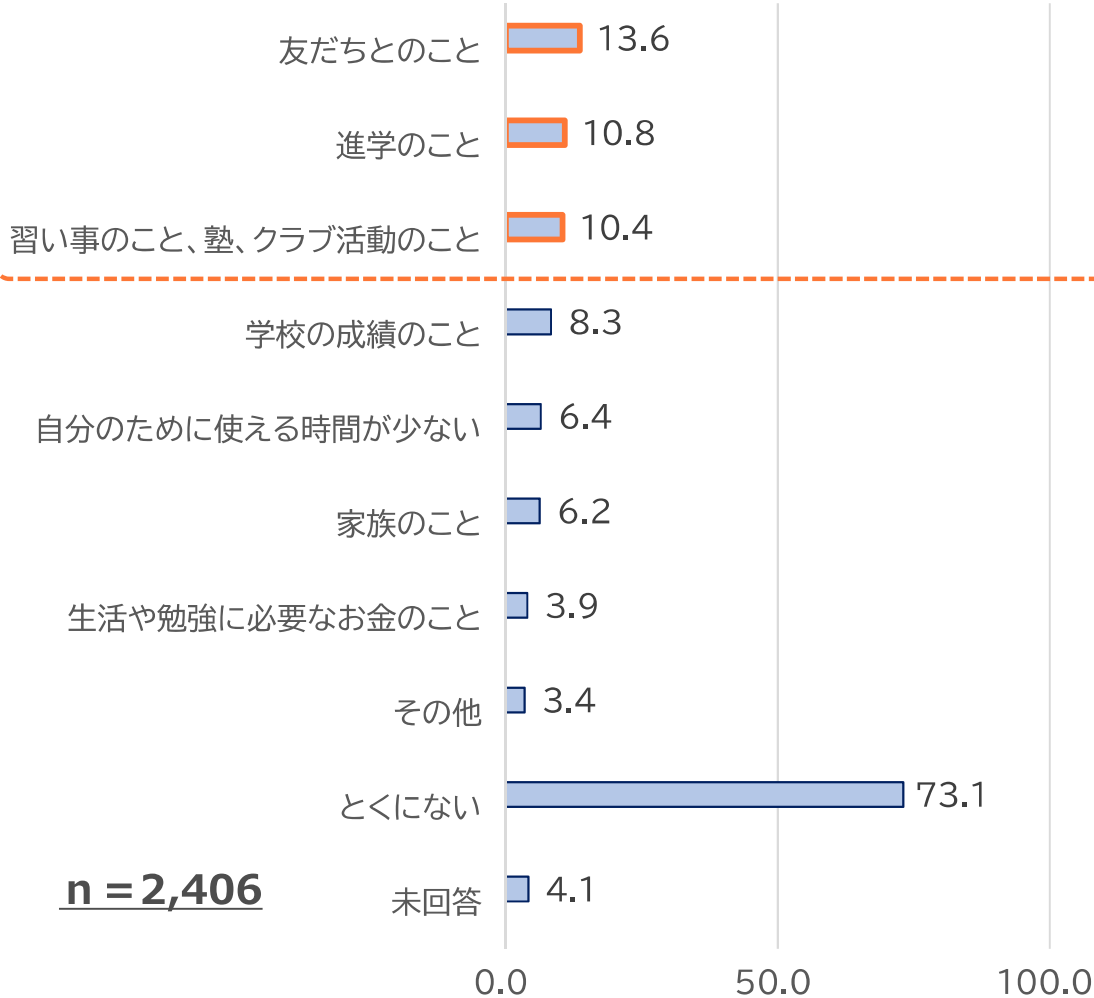
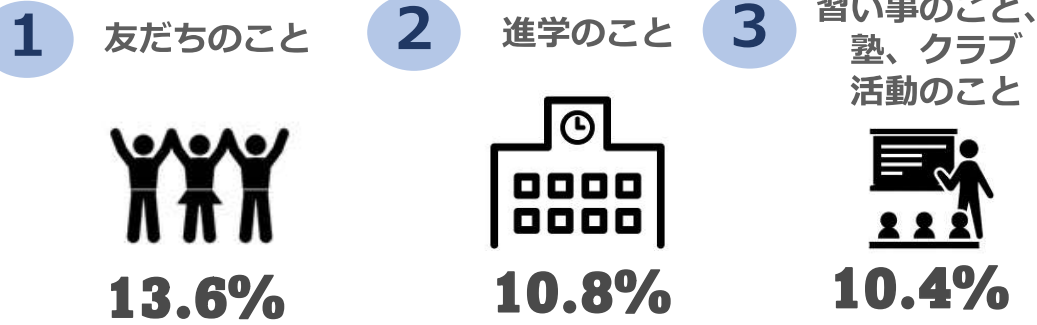


ふだんの学校生活にあてはまる事（複数回答）

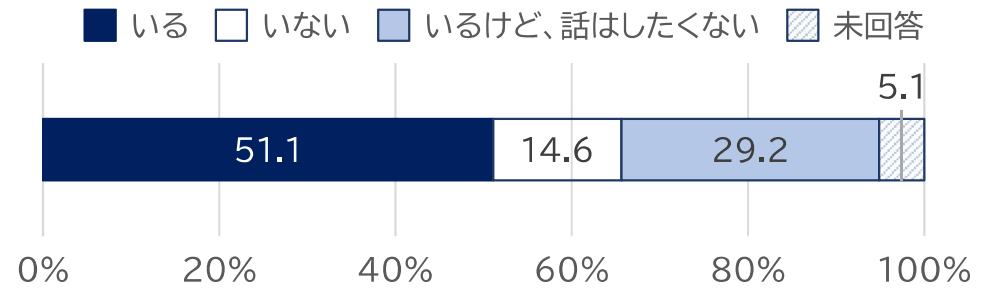


■ 回答した中野区の小学生の悩んでいることや困っていることについて

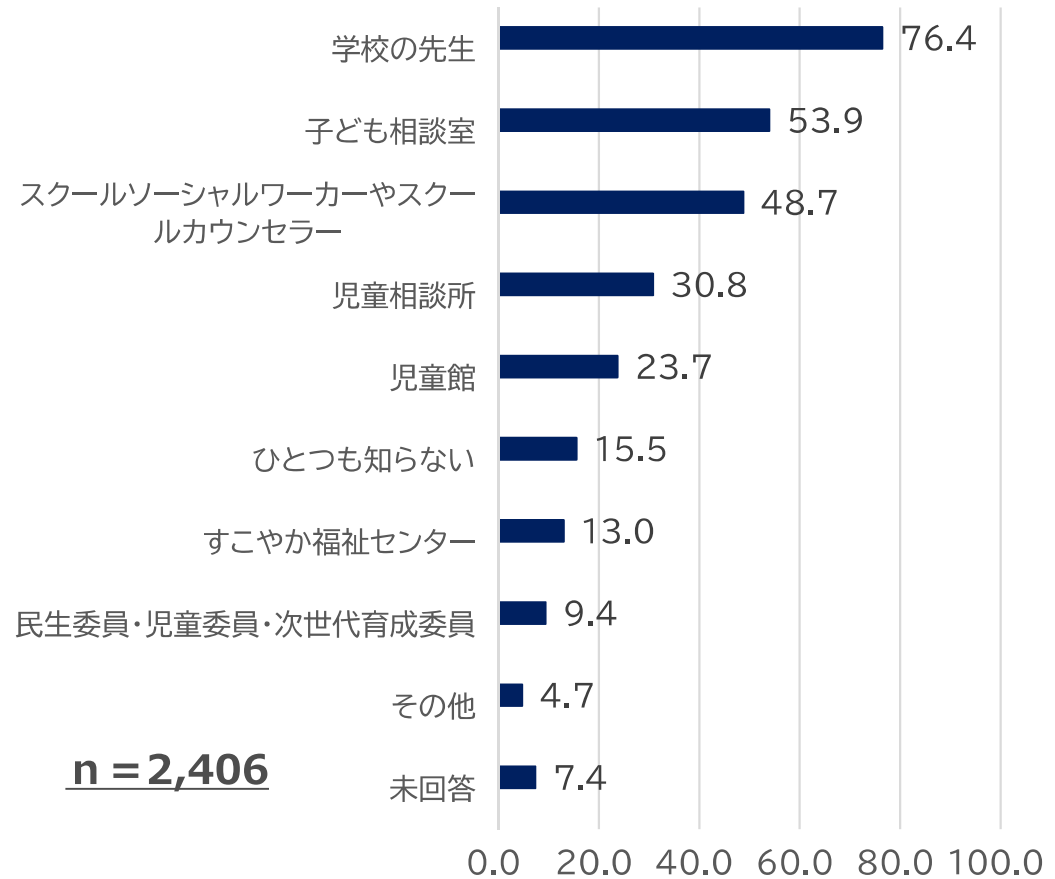
【今、悩んでいることや困っていること】 単位：%



困っている子どもの相談相手の有無 n=742

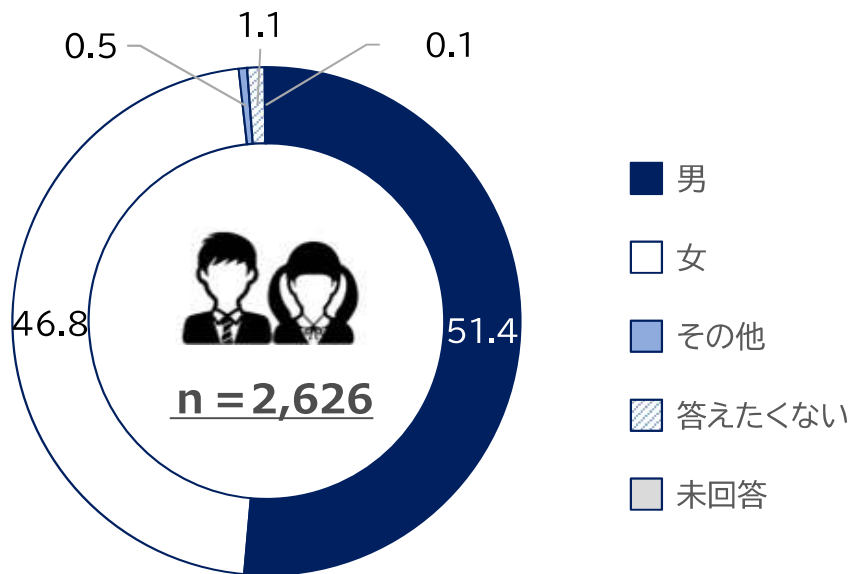


「悩み」や「困っていること」について、家族以外に相談できるところの認知 単位：%

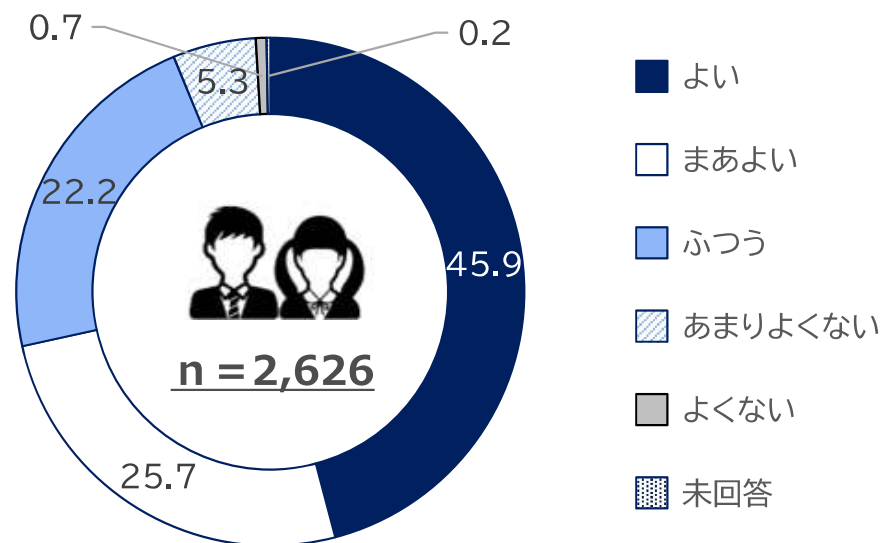


■ 回答した中野区の中学生の基本情報

【性別】 単位：%

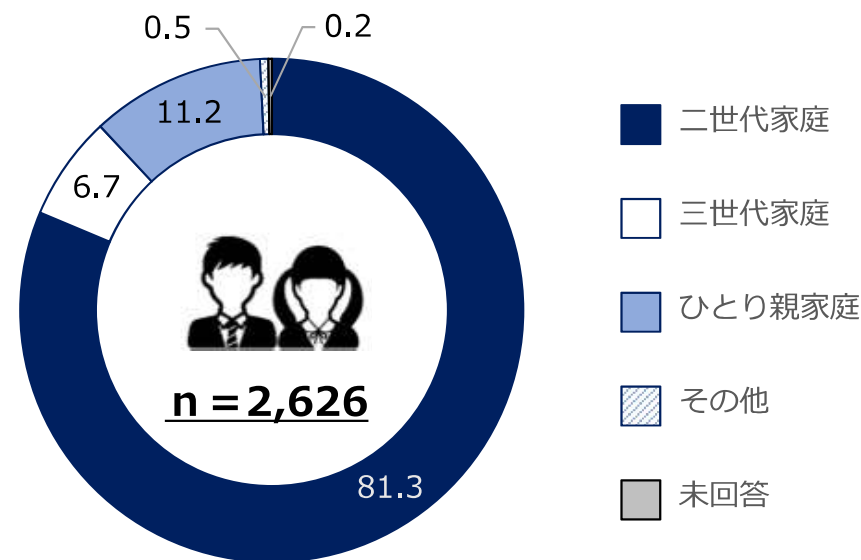
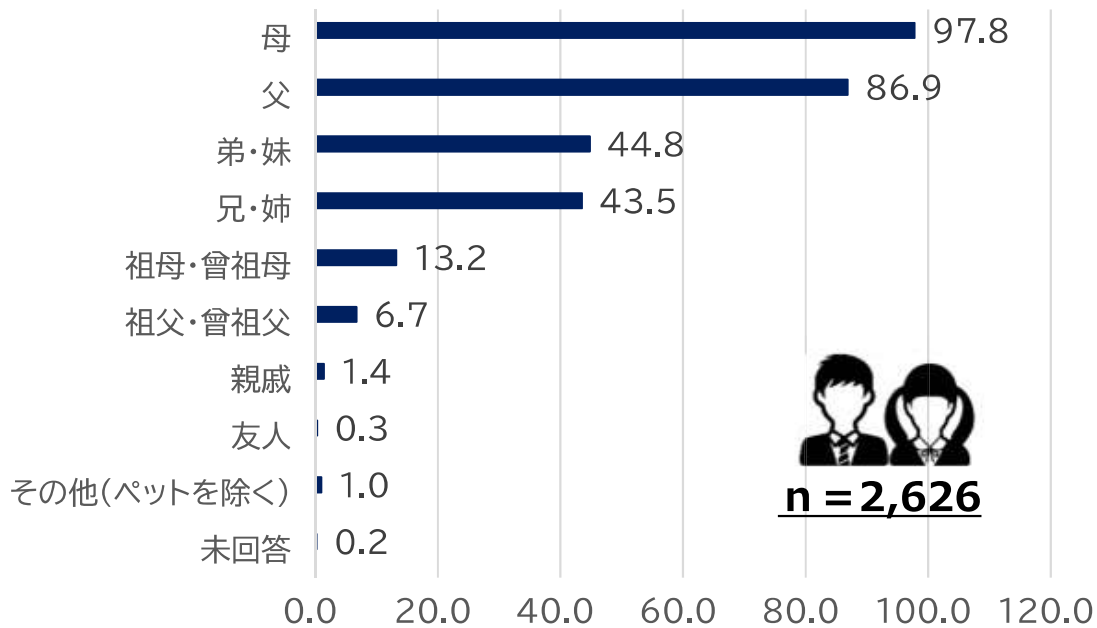


【健康状態】 単位：%



【家族構成】

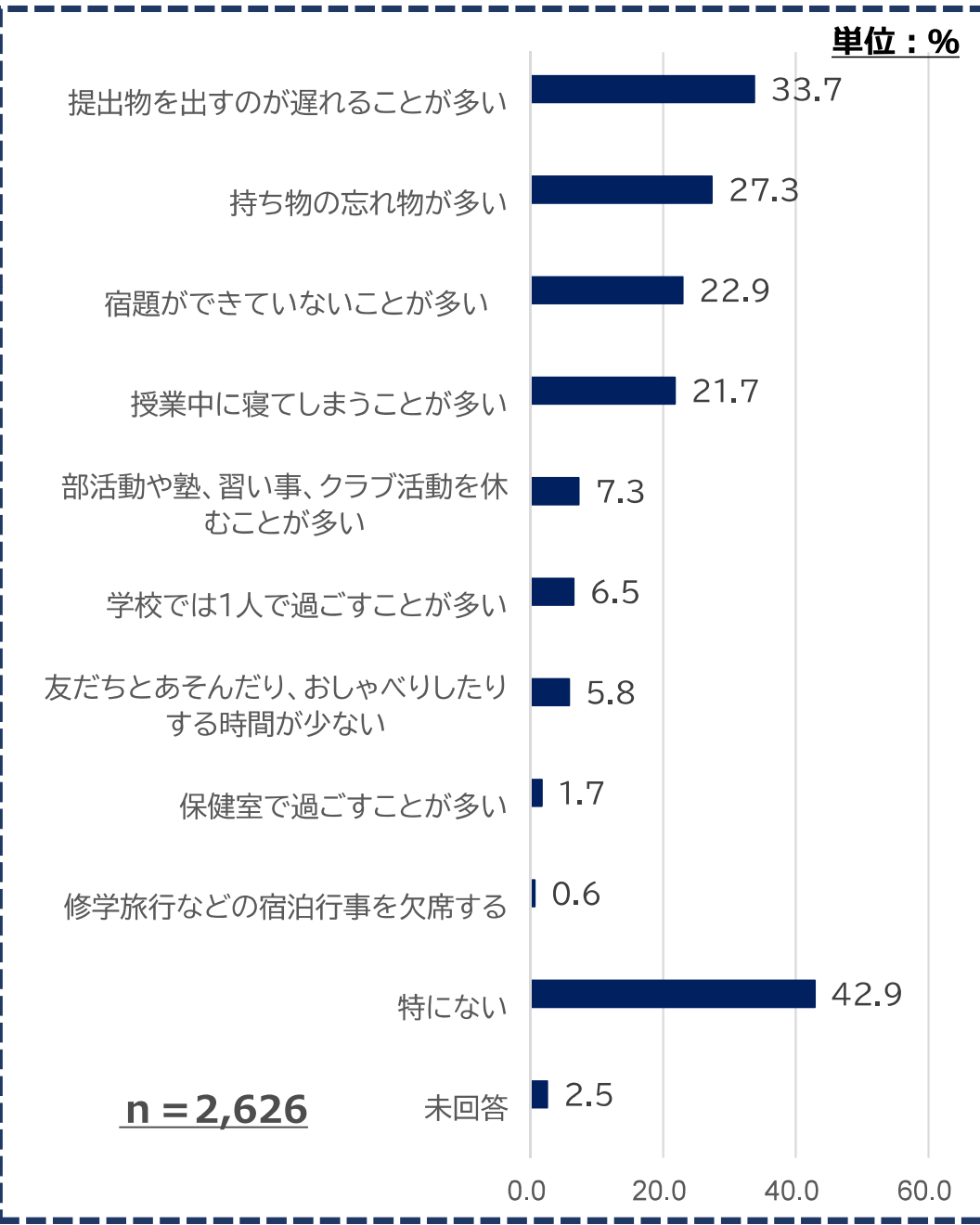
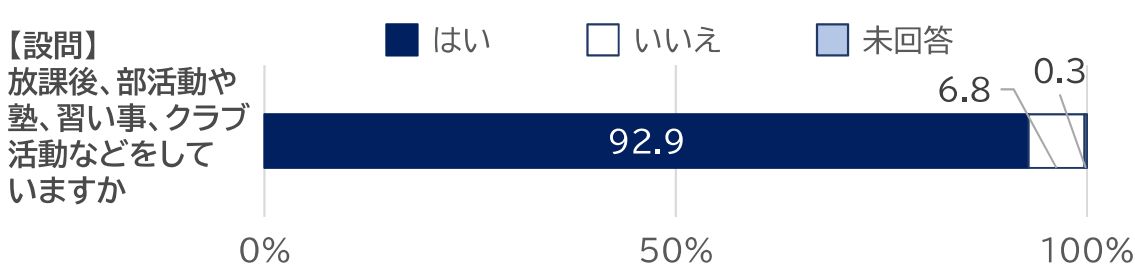
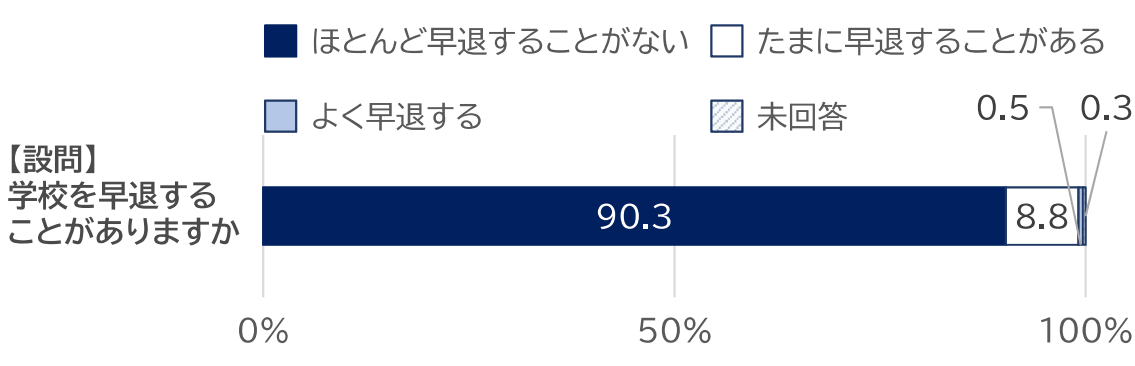
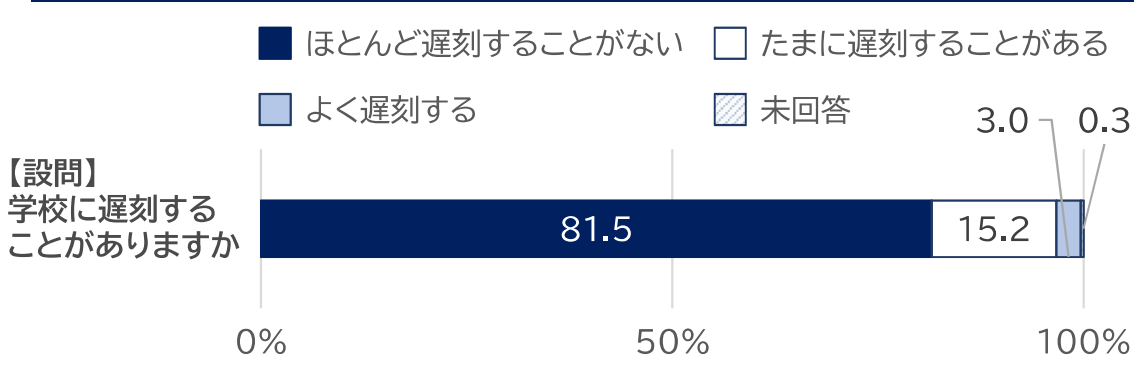
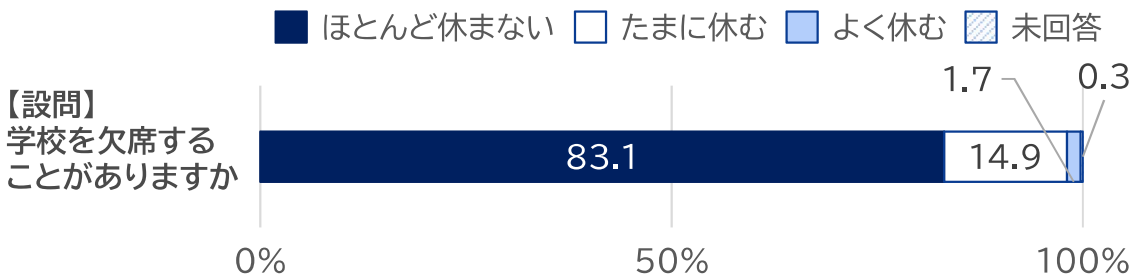
単位：%



回答した中野区の中学生の学校への通学状況

ふだんの学校生活について n=2,626

ふだんの学校生活にあてはまる事（複数回答）



■ 回答した中野区の中学生の悩んでいることや困っていることについて

【今、悩んでいることや困っていること】

単位：%

1 学校の成績のこと 2 進路のこと 3 友だちとのこと



49.9%

学校の成績のこと



40.7%

進路のこと



15.4%

友だちとのこと

塾、習い事のこと

クラブ活動、部活動のこと

自分と家族の関係のこと

生活にかかるお金のこと

自分以外の家庭内の人間関係のこと

学校でかかるお金のこと

その他

自分のために使える時間が少ない

病気や障害のある家族のこと

特にない

未回答

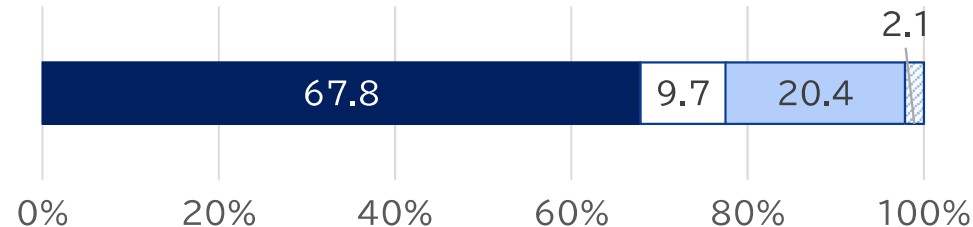
n = 2,626

0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0

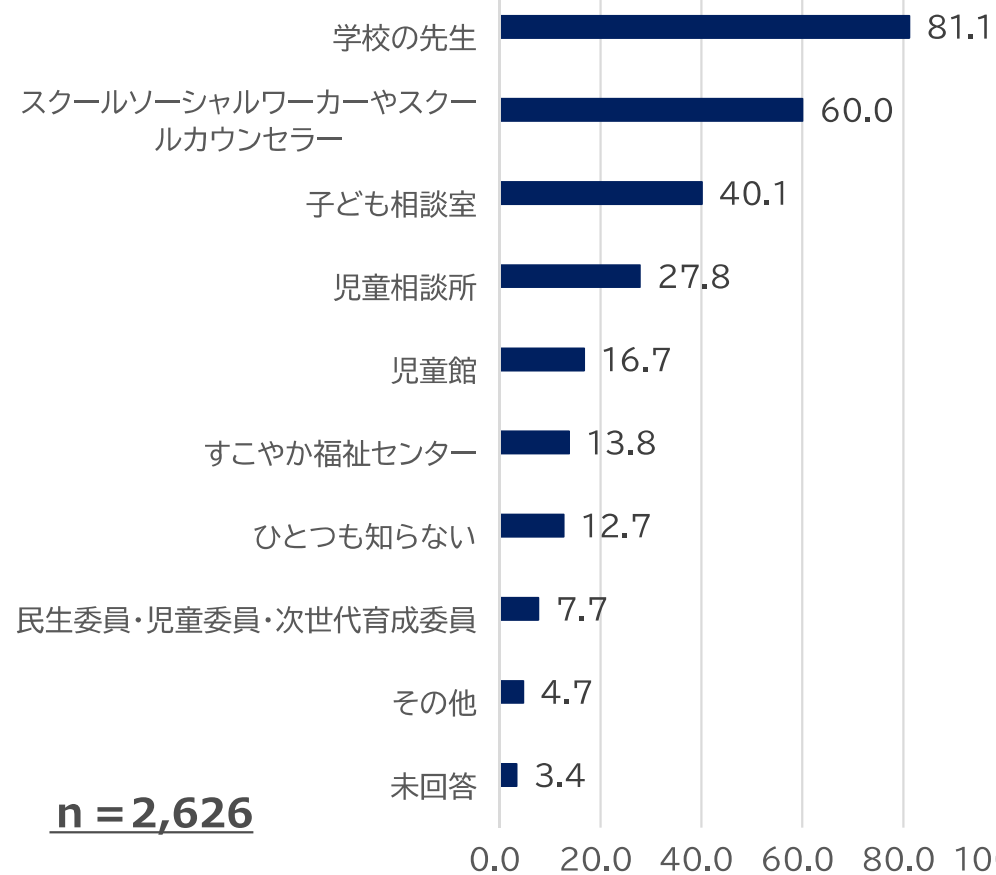
相談相手の有無

n=2,626

■ いる □ いない ■ いるけど、話はしたくない ■ 未回答



「悩み」や「困っていること」について、
家族以外に相談できるところの認知 単位：%



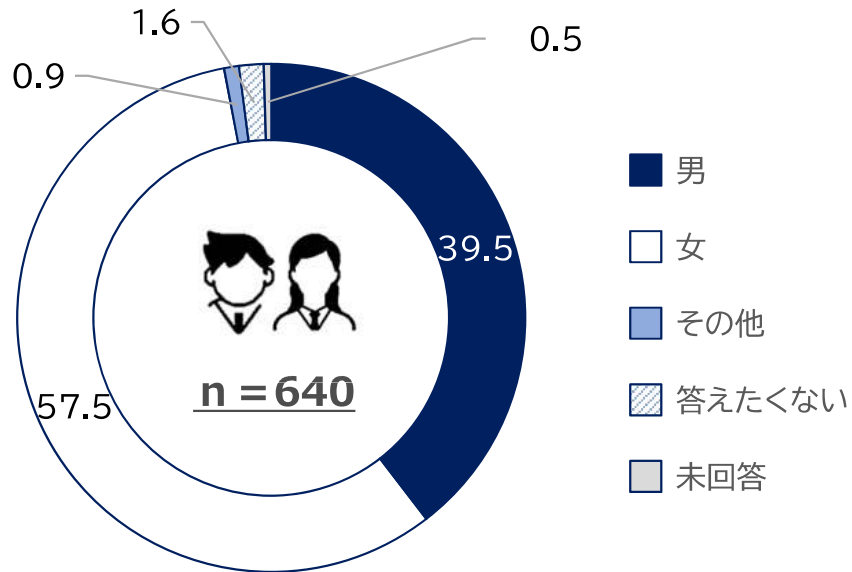
n = 2,626

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0

回答した中野区の高中生世代の基本情報

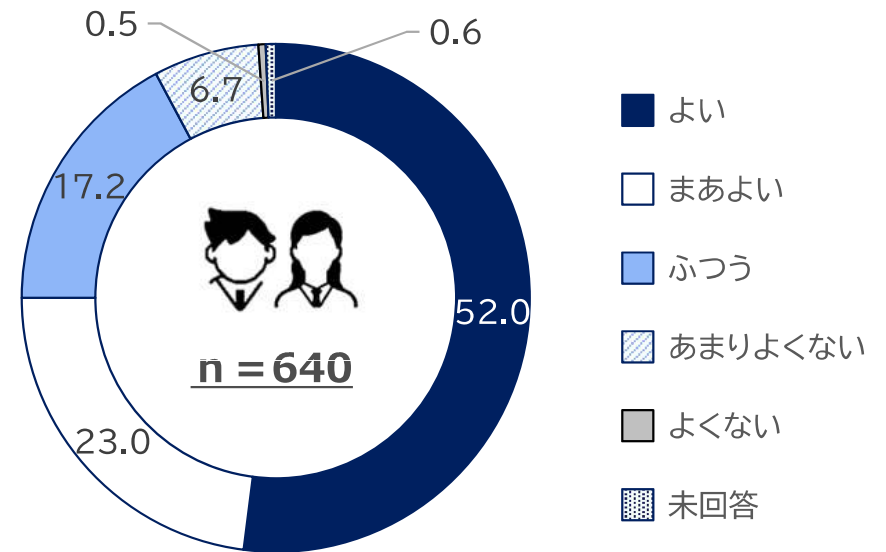
【性別】

単位：%



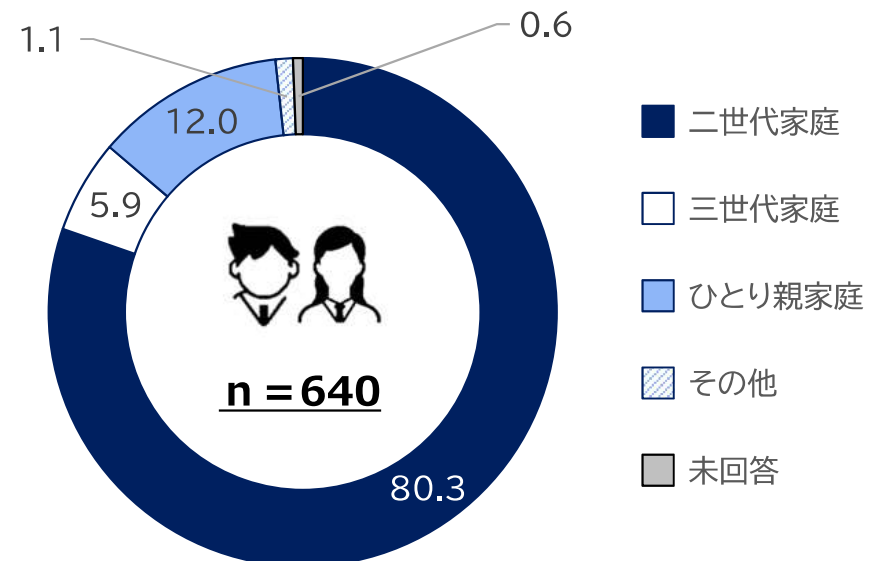
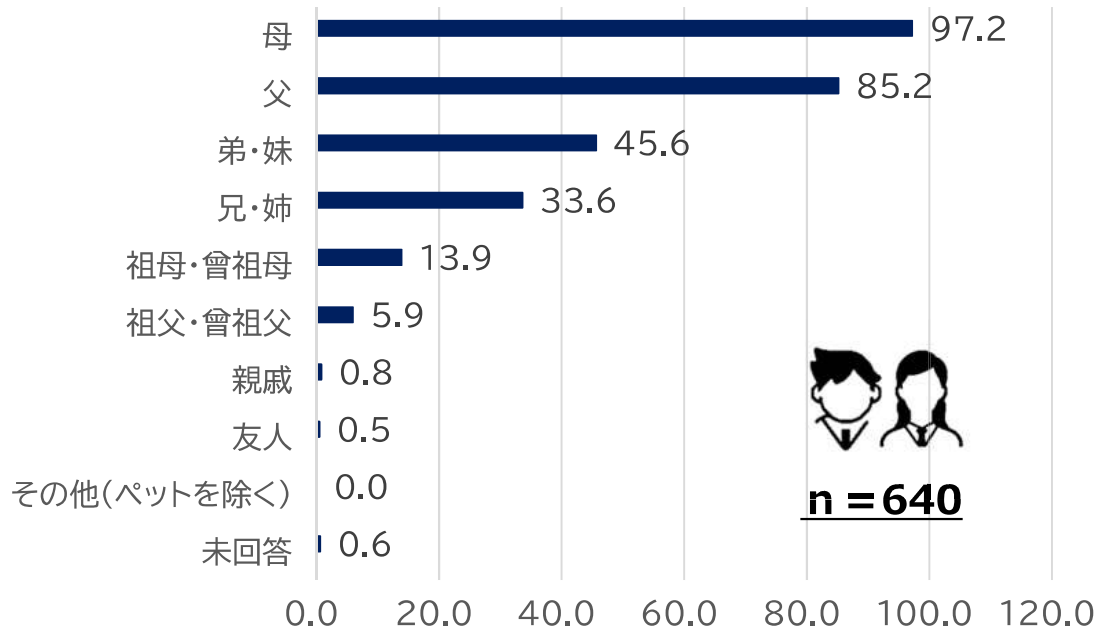
【健康状態】

単位：%



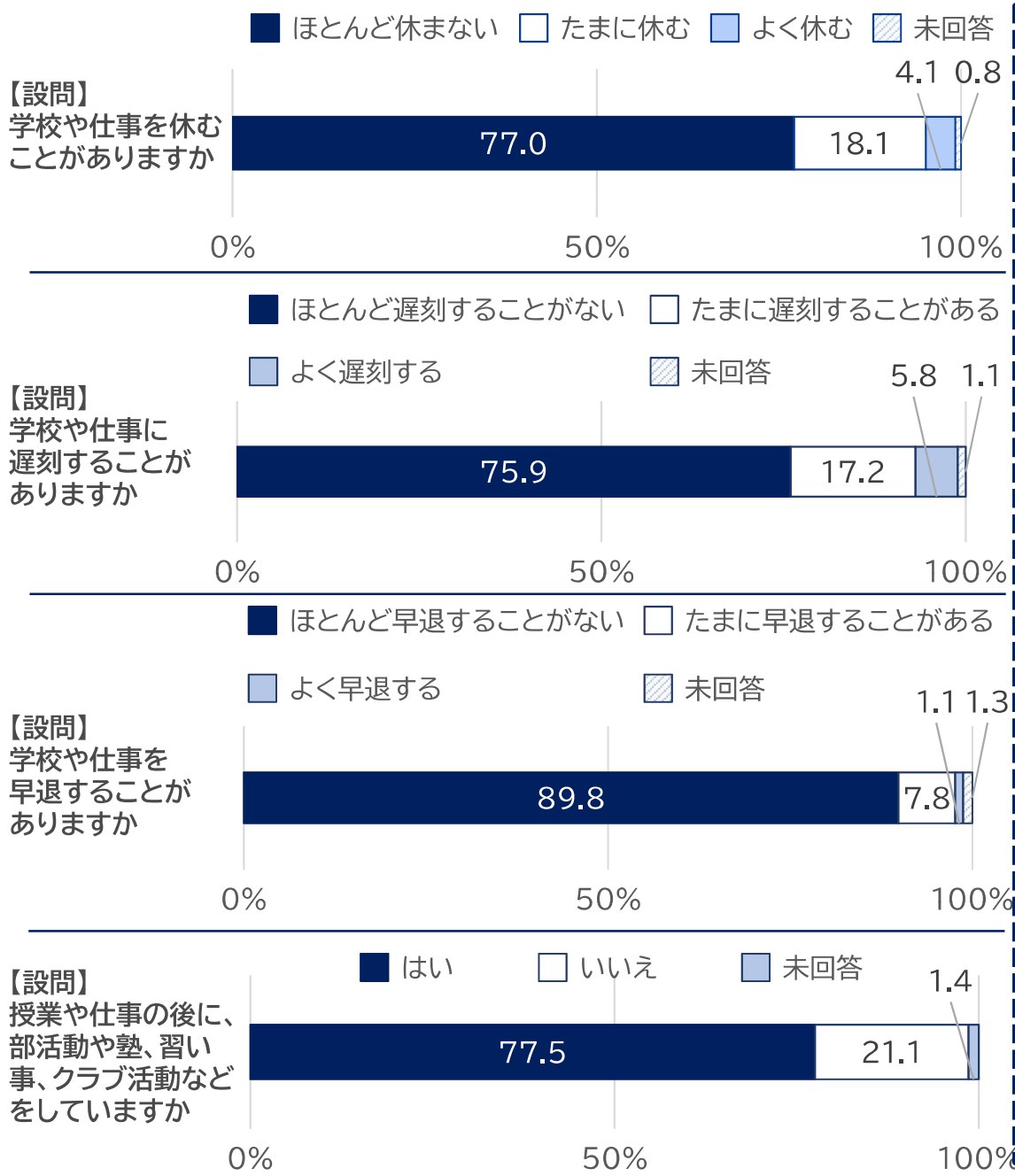
【家族構成】

単位：%

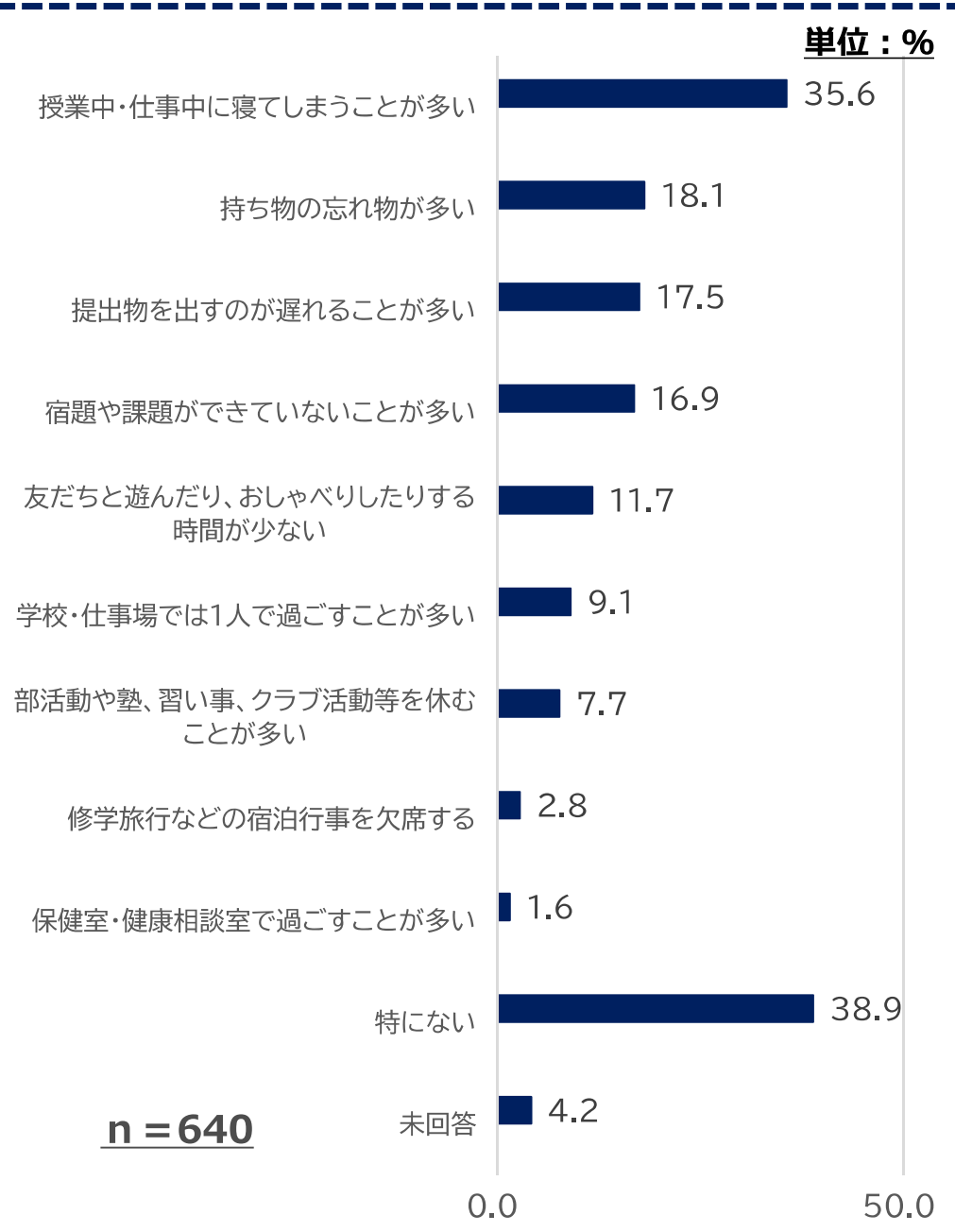


■ 回答した中野区の高中生世代の学校・職場への通学・通勤状況

ふだんの生活について n=640



ふだんの生活にあてはまる事（複数回答）



■ 回答した中野区の高中生世代の悩んでいることや困っていることについて

【今、悩んでいることや困っていること】

単位：%

① 進路・将来のこと ② 学校・仕事のこと ③ 友だちとのこと



64.8%



19.4%



18.0%

進路・将来のこと 64.8

学校・仕事のこと 19.4

友だちとのこと 18.0

生活にかかるお金のこと 16.5

学校でかかるお金のこと 13.9

クラブ活動、部活動のこと 13.4

自分と家族の関係のこと 9.6

自分のために使える時間が少ない 8.3

塾、習い事のこと 6.9

自分以外の家庭内の人間関係のこと 5.0

病気や障害のある家族のこと 3.3

その他 2.9

特にない 30.6

未回答 1.9

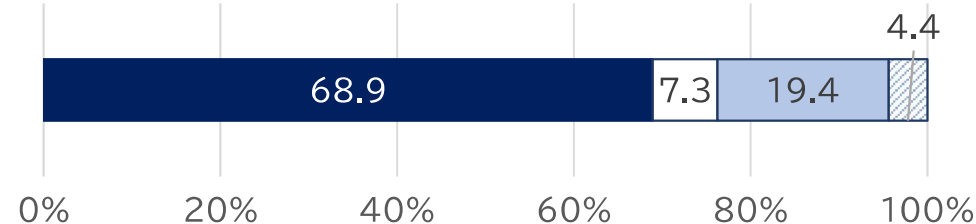
n = 640

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0

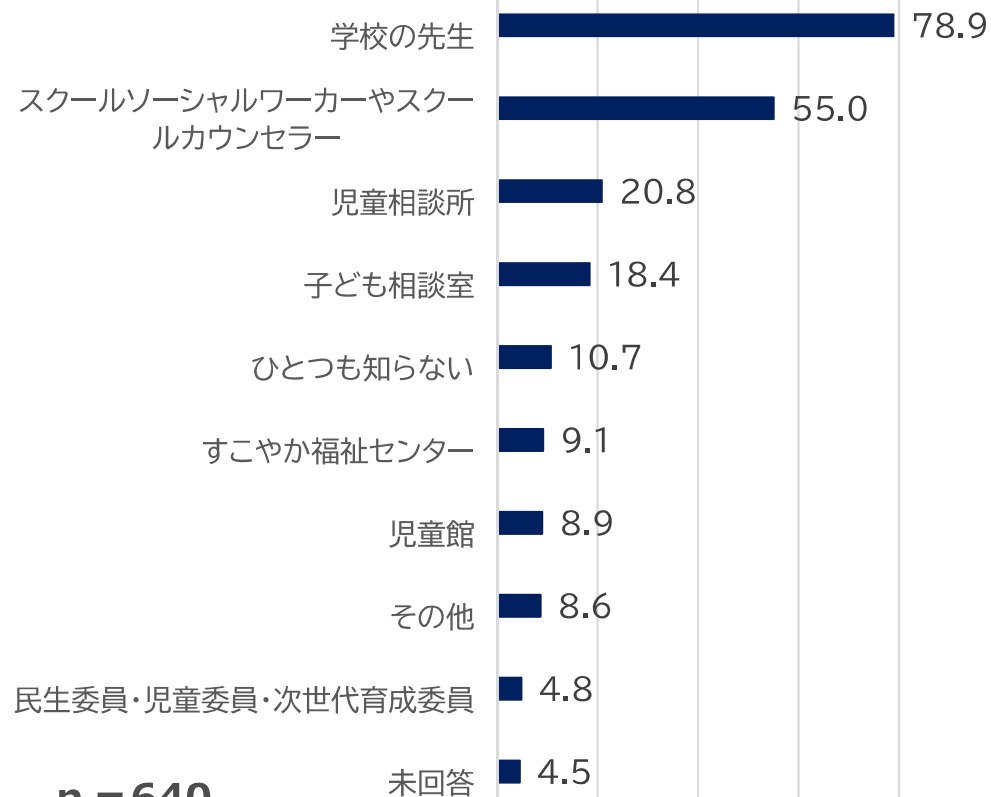
相談相手の有無

n=640

■ いる □ いない ■ いるけど、話はしたくない ▨ 未回答



「悩み」や「困っていること」について、
家族以外に相談できるところの認知 単位：%



n = 640

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0

お世話とヤングケアラーについて

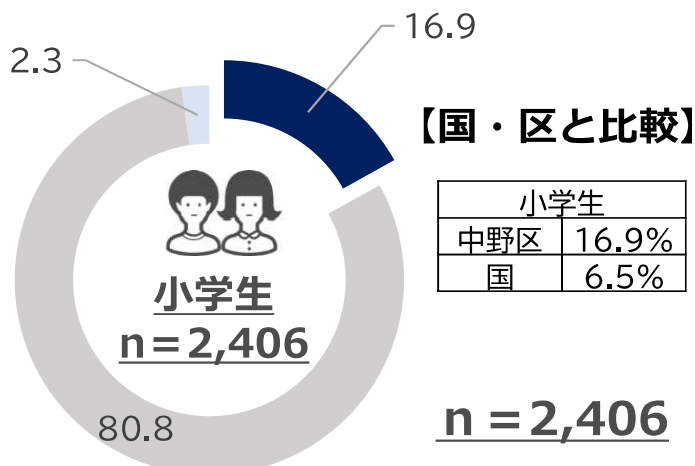
■ お世話をしている子どもの割合

結果の
ポイント

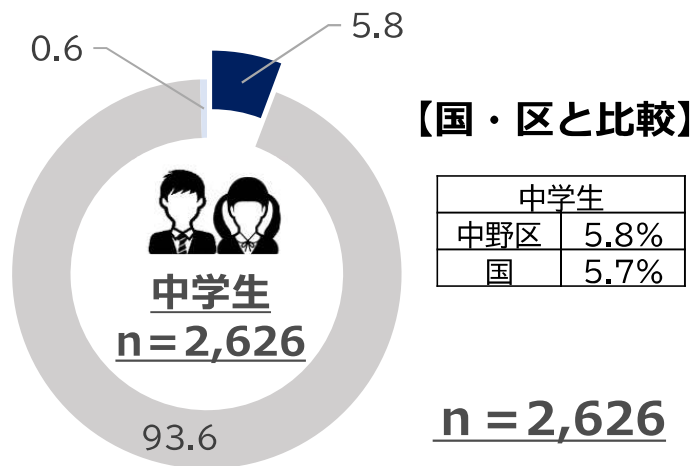
1

お世話をしている家族が「いる」と回答した小学生は16.9%（5人に1人）、中学生5.8%（17人に1人）、高校生世代は4.5%（22人に1人）。特に小学生が国と比較すると10.4ポイント高い。

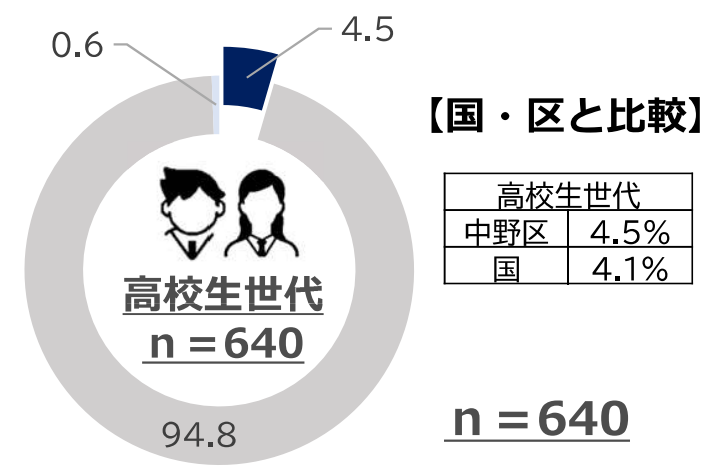
小学生の約5人に1人
16.9%が「いる」と回答



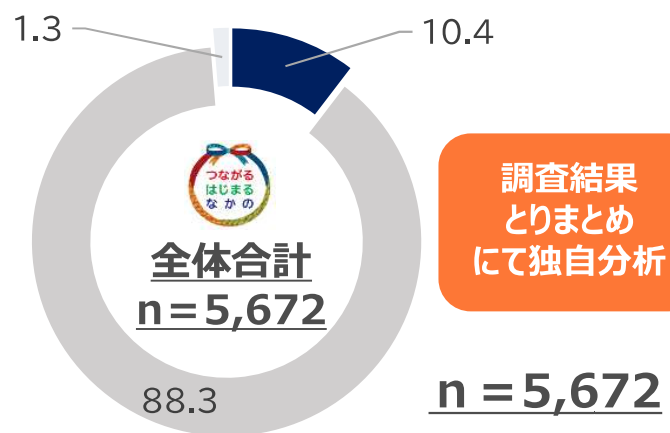
中学生の約17人に1人
5.8%が「いる」と回答



高校生世代の約22人に1人
4.5%が「いる」と回答



調査回答者の子どもの約9人に1人
10.4%が「いる」と回答



【お世話の有無の人数】

単位：人

	いる	いない	未回答
小学生	407人	1,944人	55人
中学生	152人	2,459人	15人
高校生世代	29人	607人	4人
調査対象全体	588人	5,010人	74人

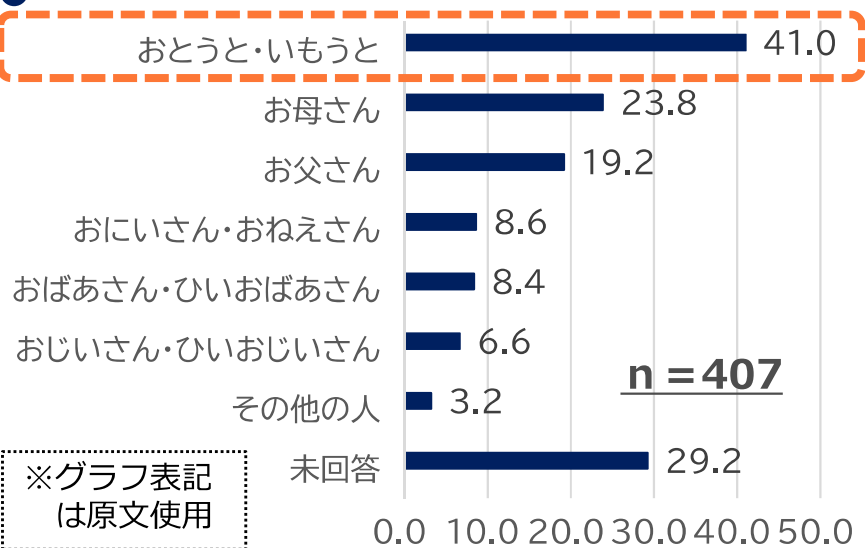
■ お世話をしている小学生のお世話の相手

結果の
ポイント

2

小学生のお世話の相手は「弟・妹」、次いで「母」の割合が高い。お世話の理由は相手が母と父の場合、お世話の理由は「わからない」、弟・妹の場合「幼いため」、祖母や祖父の場合「高齢のため」、兄・姉の場合「わからない」の割合が高い。

【お世話をしている相手】※複数回答 単位：%



弟・妹



n = 167

1

幼いため **70.7%**

2

わからない **10.2%**

3

介護が必要
他1件 **8.4%**

母



n = 97

わからない **41.2%**

介護が必要 **16.5%**

高齢のため
(65歳以上)
他2件 **7.2%**

父



n = 78

わからない **39.7%**

介護が必要 **9.0%**

高齢のため
(65歳以上)
他2件 **6.4%**

兄・姉



n = 35

1

わからない **48.6%**

2

介護が必要 **20.0%**

3

その他 **14.3%**

祖母
曾祖母



n = 34

高齢のため
(65歳以上) **58.8%**

わからない **23.5%**

介護が必要 **17.6%**

祖父
曾祖父



n = 27

高齢のため
(65歳以上) **51.9%**

介護が必要 **25.9%**

認知症のため
他1件 **18.5%**

その他
の人



n = 13

介護が必要 **23.1%**

その他 **15.4%**

高齢のため
(65歳以上)
他1件 **7.7%**

■ お世話をしている小学生のお世話の内容

結果の
ポイント

3

お世話をしている小学生のお世話の内容は「見守り」26.3%、「家事」23.3%、「きょうだいのお世話や送り迎え」22.1%の割合が他に比べて高くなっている。

どのようなお世話をしているか（複数回答）

1

見守り



26.3%

2

家事



23.3%

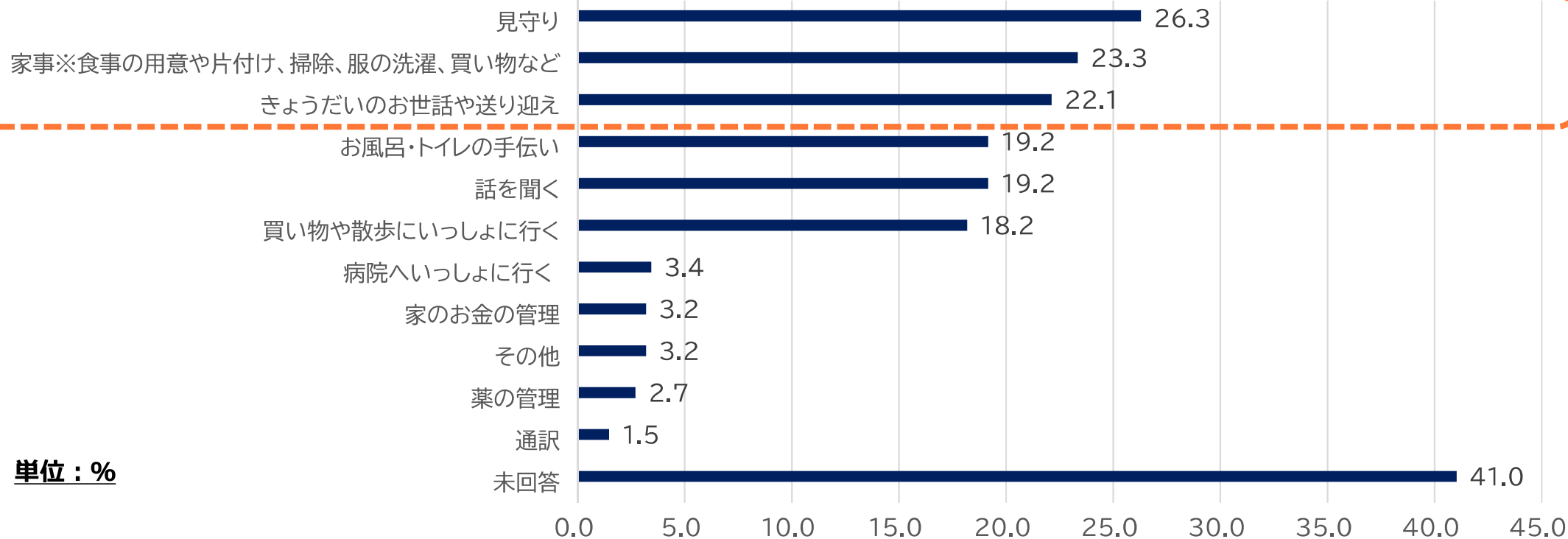
3

きょうだいのお世話や
送り迎え



22.1%

n = 407



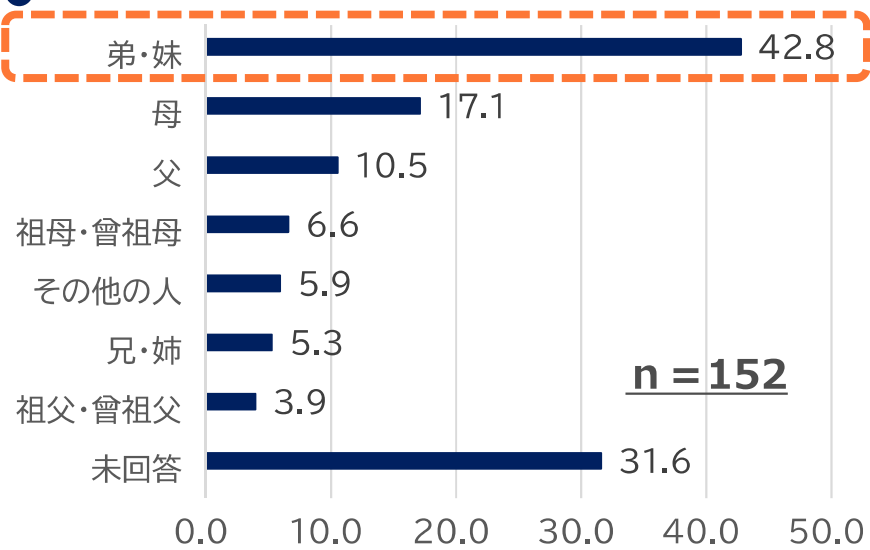
■ お世話をしている中学生のお世手の相手

結果の
ポイント

4

中学生のお世手の相手は「弟・妹」、次いで「母」の割合が高い。お世手の理由は相手が母と父の場合「介護が必要」、弟・妹の場合「幼いため」、祖母や祖父の場合「高齢のため」、兄・姉の場合「その他」の割合が高い。

【お世話をしている相手】 ※複数回答 単位：%



弟・妹



n = 65

1

幼いため **81.5%**

2

介護が必要 **10.8%**

3

その他 **10.8%**

母



n = 26

介護が必要 **23.1%**

日本語が苦手なため **15.4%**

身体障害のため **11.5%**

父



n = 16

介護が必要 **25.0%**

日本語が苦手なため **12.5%**

身体障害のため他2件 **12.5%**

祖母
曾祖母



n = 10

1

高齢のため (65歳以上) **90.0%**

2

介護が必要 **20.0%**

3

認知症のため 他2件 **20.0%**

その他
の人



n = 9

その他 **33.3%**

介護が必要 **22.2%**

幼いため 他8件 **11.1%**

兄・姉



n = 8

その他 **37.5%**

身体障害のため **12.5%**

介護が必要 他4件 **12.5%**

祖父
曾祖父



n = 6

高齢のため (65歳以上) **66.7%**

介護が必要 **50.0%**

認知症のため 他1件 **50.0%**

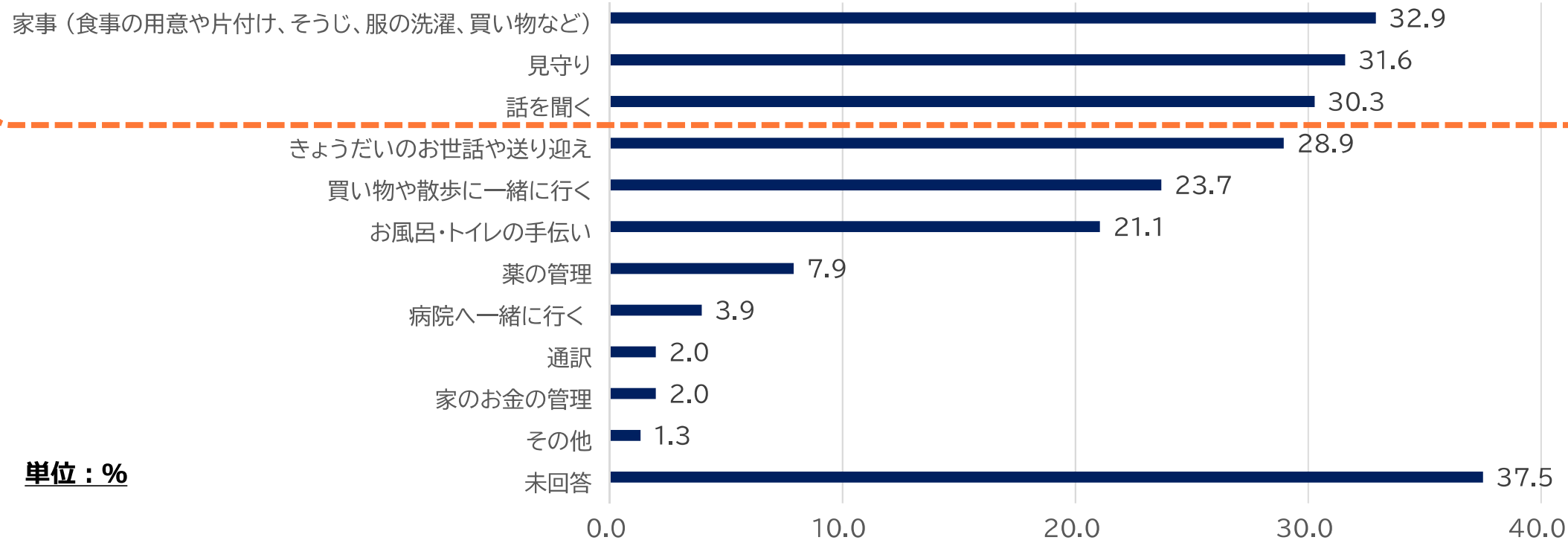
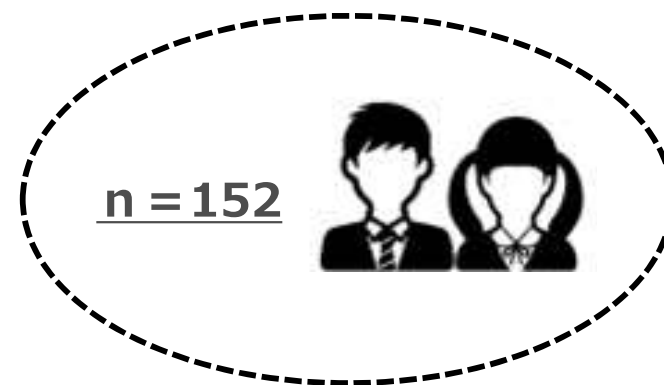
■ お世話をしている中学生のお世話の内容

結果の
ポイント

5

お世話をしている中学生のお世話の内容は「家事」32.9%、「見守り」31.6%、「話を聞く」30.3%の割合が他に比べて高くなっている。

どのようなお世話をしているか（複数回答）



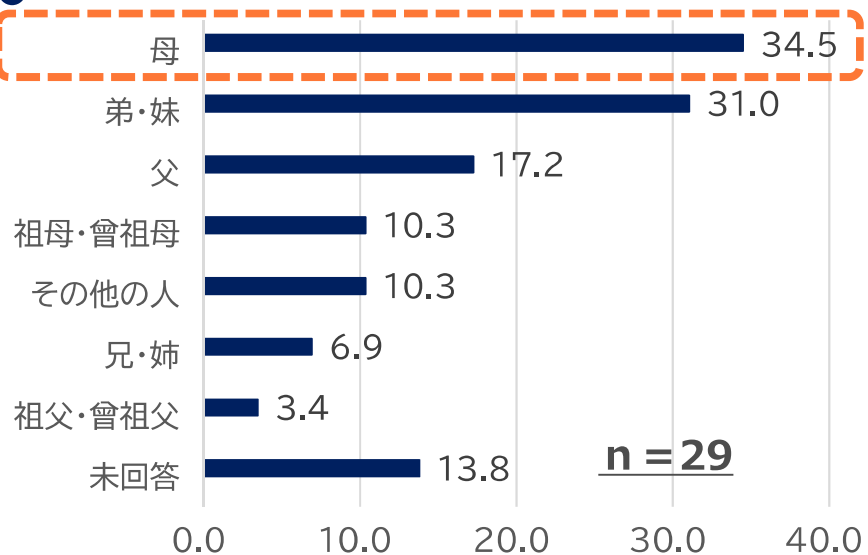
■ お世話をしている高校生世代のお世話の相手

結果の
ポイント

6

高校生世代のお世話の相手は「母」、次いで「弟・妹」の割合が高い。お世話の理由は相手が母と父の場合「日本語が苦手なため」、弟・妹の場合「その他」「幼いため」、祖母や祖父の場合「高齢のため」、兄・姉の場合「知的障害のため」の割合が高い。

【お世話をしている相手】※複数回答 単位：%



母



n = 10

1

日本語が
苦手なため **40.0%**

2

知的障害
のため **20.0%**

3

高齢のため
(65歳以上) **10.0%**

弟・妹



n = 9

その他 **55.6%**

幼いため **44.4%**

日本語が
苦手なため
他2件 **11.1%**

父



n = 5

日本語が
苦手なため **60.0%**

その他 **20.0%**

未回答 **20.0%**

祖母
曾祖母



n = 3

1

高齢のため
(65歳以上) **100%**

2

介護が必要 **33.3%**

3

認知症のため
他1件 **33.3%**

その他
の人



n = 3

依存症
のため **33.3%**

※未回答
66.7%

兄・姉



n = 2

知的障害
のため **100%**

介護が必要 **50.0%**

身体障害
のため **50.0%**

祖父
曾祖父



n = 1

高齢のため
(65歳以上) **100%**

介護が必要 **100%**

身体障害
のため **100%**

■ お世話をしている高校生世代のお世話の内容

結果の
ポイント

7

お世話をしている高校生世代のお世話の内容は「家事」48.3%、「話を聞く」37.9%、「見守り」27.6%の割合が他に比べて高くなっている。

どのようなお世話をしているか（複数回答）

1

家事



48.3%

2

話を聞く



37.9%

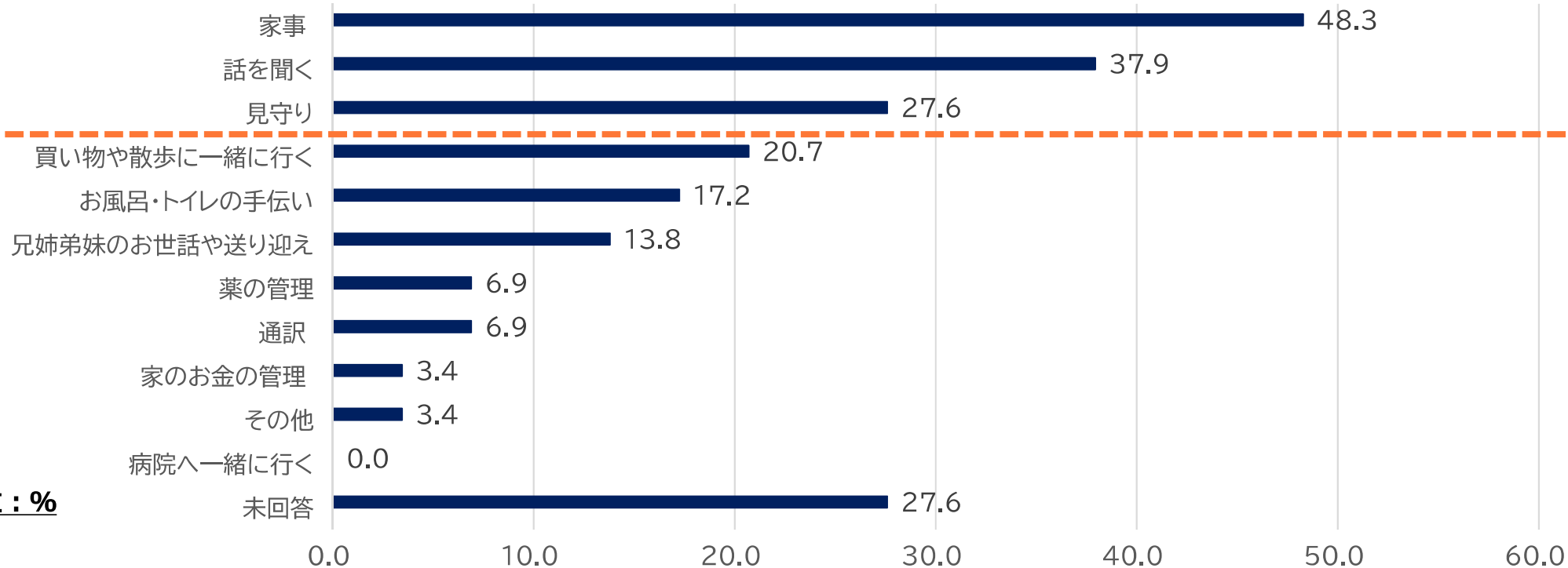
3

見守り



27.6%

n = 29



小学生のお世話の状況（お世話を始めた年齢・頻度・時間・影響）

結果の
ポイント

8

小学生がお世話を始めた年齢は平均7.0歳。1日のお世話の平均時間は2.8時間で、「1時間以上3時間未満」が28.0%と最も高い。お世話の頻度は「ほぼ毎日」が30.7%と最も高く、自分の時間・勉強時間・睡眠時間に影響が出ている割合が高い。

【お世話を始めた年齢と1日のお世話の平均時間】

お世話を始めた年齢

平均 **7.0** 歳



n = 253

1日のお世話の平均時間

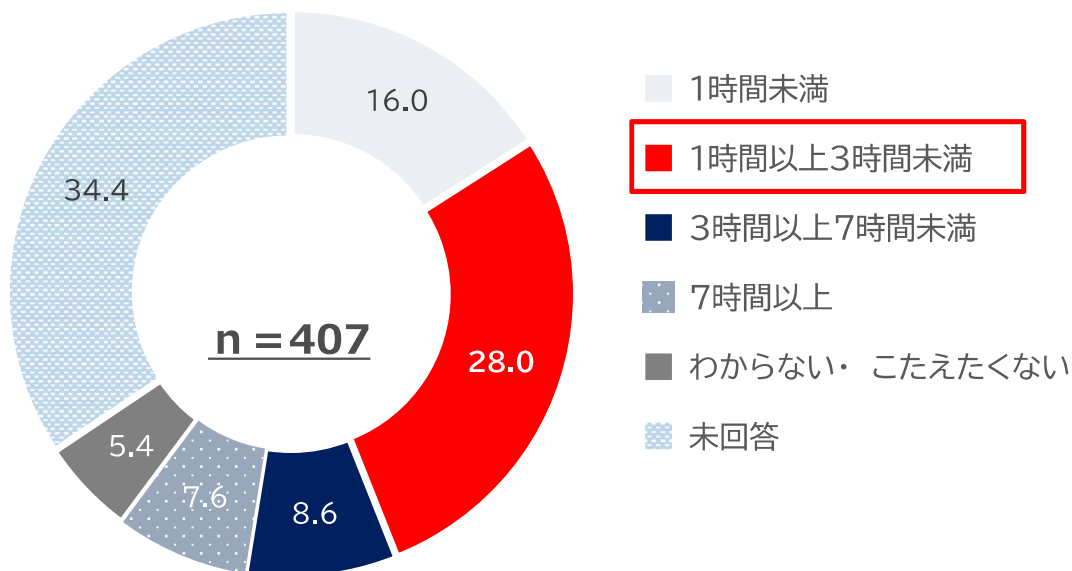
平均 **2.8** 時間



n = 245

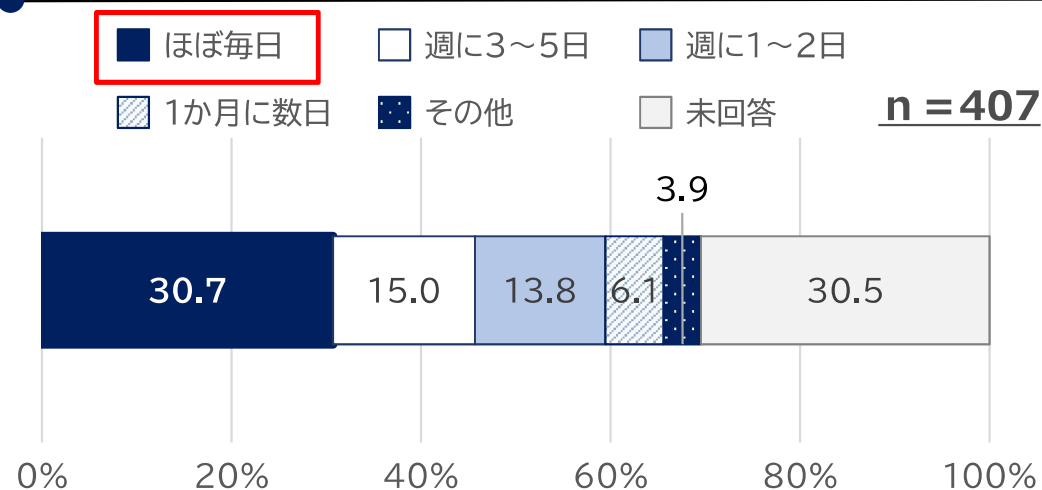
【1日のお世話の平均時間の割合】

単位：%



【お世話の頻度】

単位：%



お世話による影響（複数回答・上位3種）

1

自分の時間がとれない



8.4%

2

宿題など、勉強をする時間がない



7.9%

3

眠る時間がたりない



5.7%

n = 407

■ 中学生のお世話の状況（お世話を始めた年齢・頻度・時間・影響）

結果の
ポイント

9

中学生がお世話を始めた年齢は平均9.8歳。1日のお世話の平均時間は3.2時間で、「1時間以上3時間未満」が25.0%と最も高い。お世話の頻度は「ほぼ毎日」が34.2%と最も高く、遊ぶ時間・勉強時間・睡眠時間に影響が出ている割合が高い。

【お世話を始めた年齢と1日のお世話の平均時間】

お世話を始めた年齢

平均 **9.8** 歳



n = 91

1日のお世話の平均時間

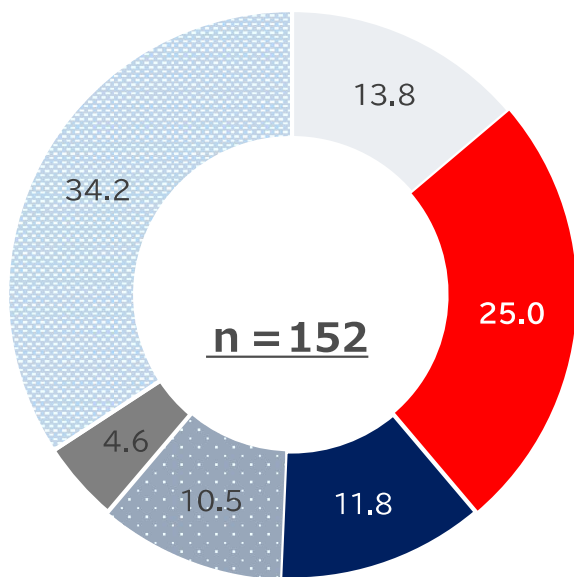
平均 **3.2** 時間



n = 93

【1日のお世話の平均時間の割合】

単位：%



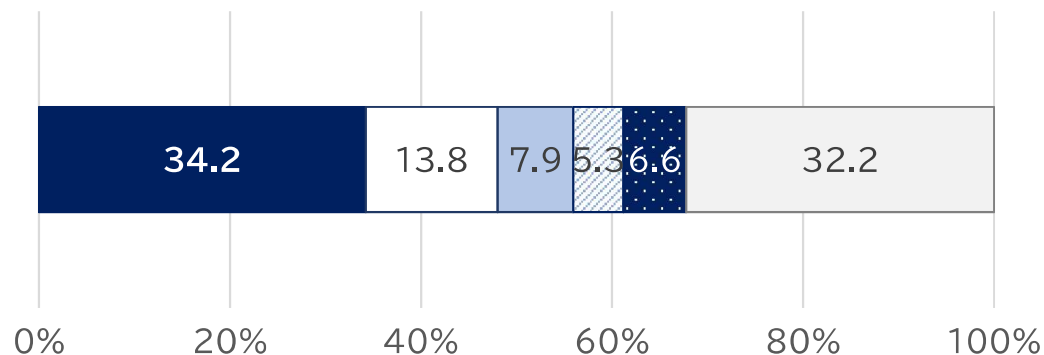
- 1時間未満
- 1時間以上3時間未満
- 3時間以上7時間未満
- 7時間以上
- わからない・答えたくない
- 未回答

【お世話の頻度】

単位：%

- ほぼ毎日
- 週に3~5日
- 週に1~2日
- 1か月に数日
- その他
- 未回答

n = 152



お世話による影響（複数回答・上位3種）

1

友だちと遊ぶことができない



10.5%

2

宿題など、勉強をする時間がない



9.9%

2

眠る時間がたりない



9.9%

n = 152

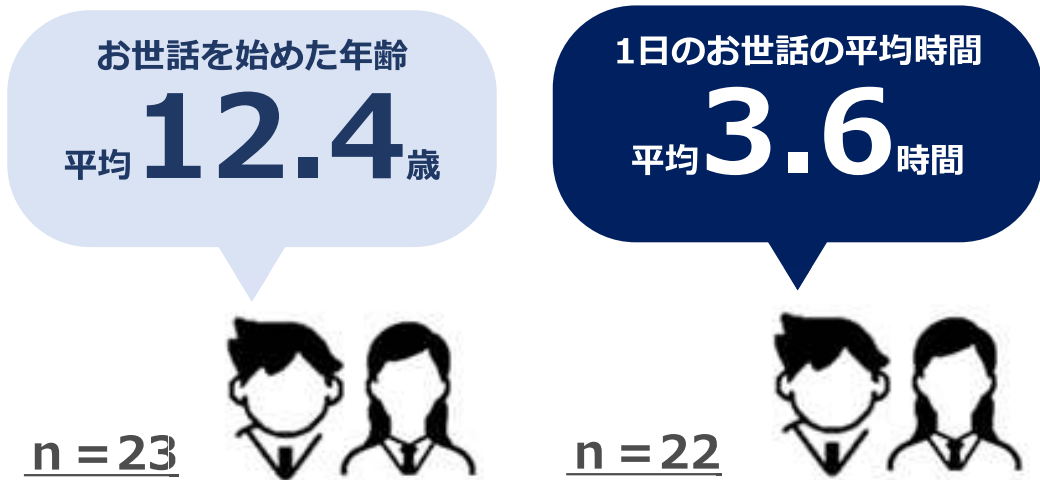
■ 高校生世代のお世話の状況（お世話を始めた年齢・頻度・時間・影響）

結果のポイント

10

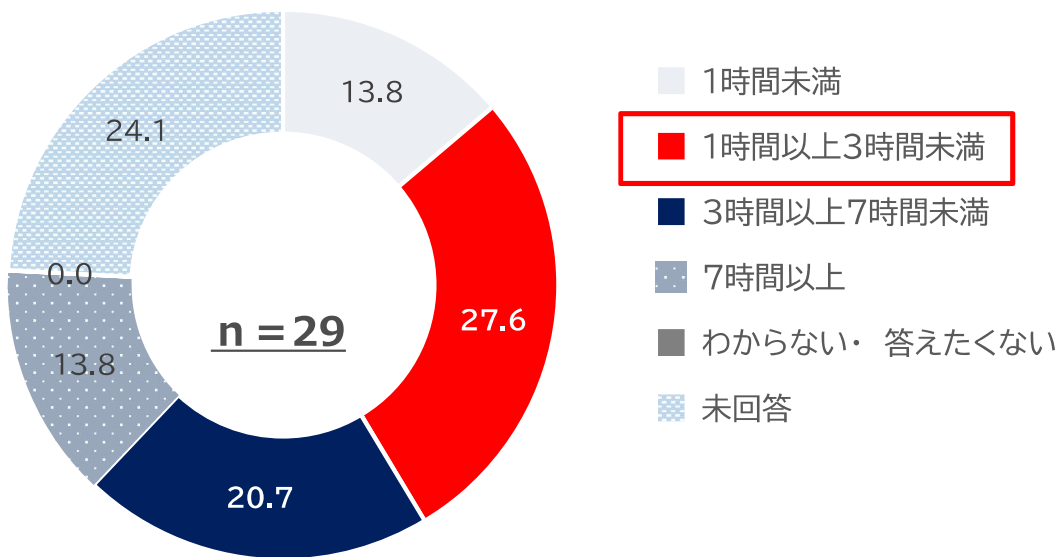
高校生世代がお世話を始めた年齢は平均12.4歳。1日のお世話の平均時間は3.6時間で「1時間以上3時間未満」が27.6%と最も高い。お世話の頻度は「ほぼ毎日」が31.0%と最も高く、睡眠時間・遊ぶ時間・自分の時間に影響が出ている割合が高い。

【お世話を始めた年齢と1日のお世話の平均時間】



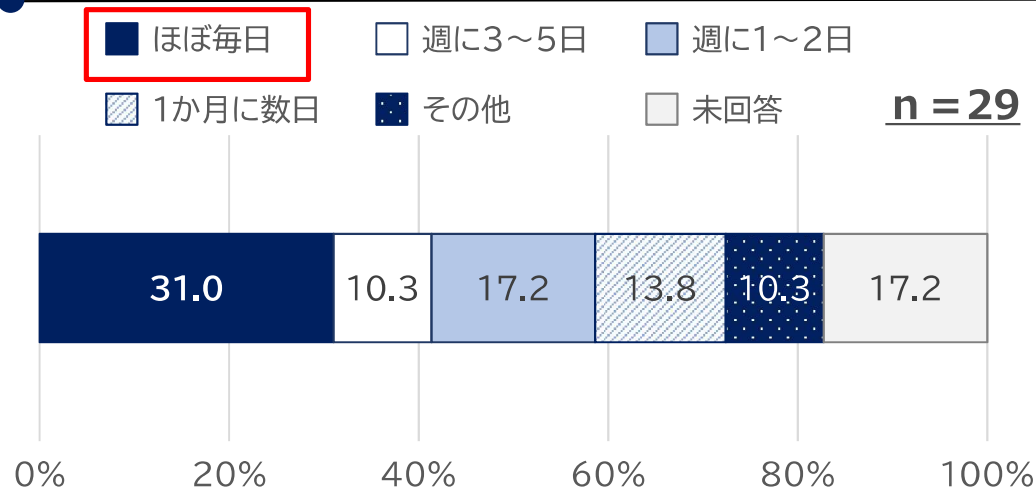
【1日のお世話の平均時間の割合】

単位：%



【お世話の頻度】

単位：%



お世話による影響（複数回答・上位3種）

- 1 眠る時間がたりない **20.7%**
- 1 友だちと遊ぶことができない **20.7%**
- 1 自分の時間がとれない **20.7%**

n = 29

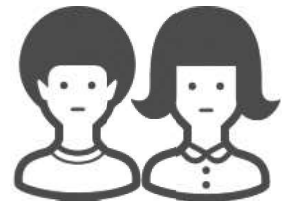
小学生のお世話による生活への影響と感じている大変さ

結果の
ポイント

11

お世話をしている小学生の20.1%がお世話が理由で、やりたいことが出来ていない等、生活に影響が出ている。また、お世話をしている小学生の26.0%がお世話に大変さを感じていて、「気持ちの面でたいへん」が55.7%と最も高い。

【お世話により生活に影響が出ている小学生】 単位%

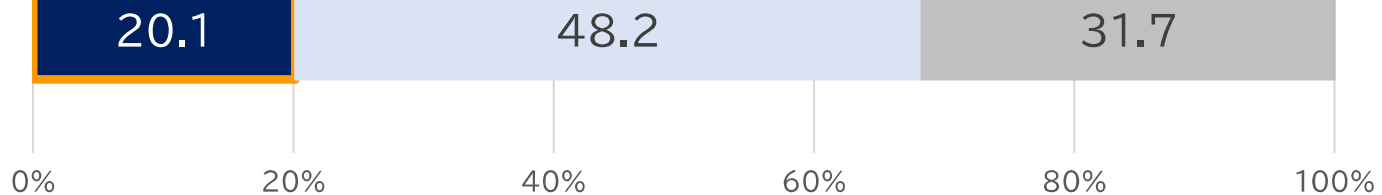


n = 407

お世話により生活に
影響が出ている 82人

特にな
い 196人

未回答
129人



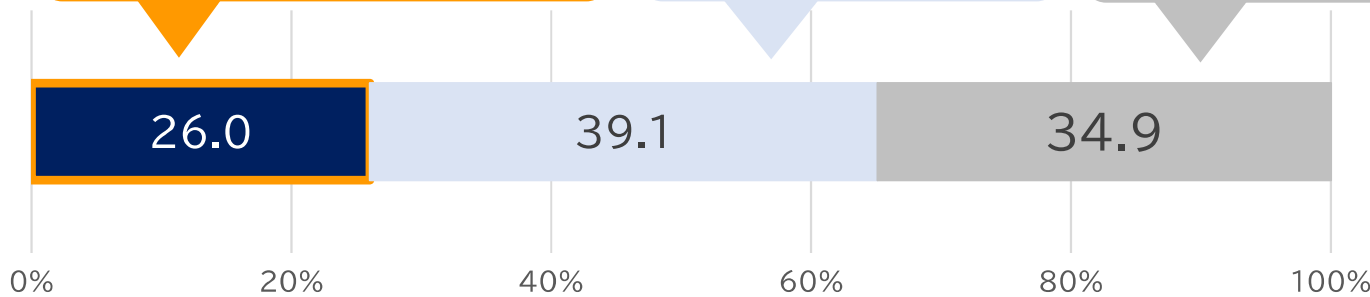
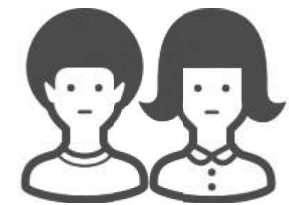
【お世話を大変と感じている小学生】 単位%

大変さを感じている
106人

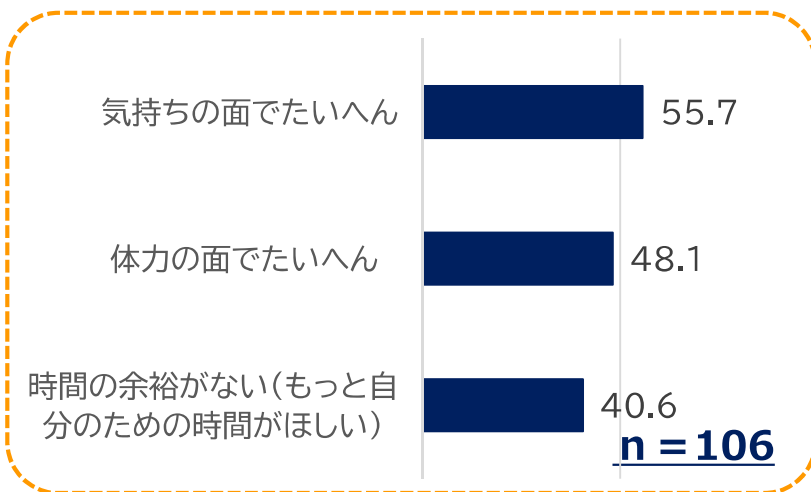
特に大変さを感じて
いない 159人

未回答
142人

n = 407



大変さを感じている小学生の回答の内訳（複数回答）



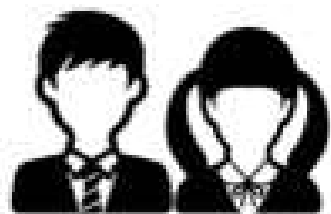
■ 中学生のお世話による生活への影響と感じている大変さ

結果の
ポイント

12

お世話をしている中学生の19.7%がお世話が理由で、やりたいことが出来ていない等、生活に影響が出ている。また、お世話をしている中学生の25.0%がお世話に大変さを感じていて、「体力の面で大変」と「気持ちの面で大変」が55.3%と最も高い。

【お世話により生活に影響が出ている中学生】 単位%



n = 152

お世話により生活に
影響が出ている 30人

19.7

特にな
い 73人

48.0

未回答
49人

32.2

0% 20% 40% 60% 80% 100%

【お世話を大変と感じている中学生】 単位%

大変さを感じている
38人

特に大変さを感じて
いない65人

未回答
49人

n = 152



25.0

42.8

32.2

0% 20% 40% 60% 80% 100%

大変さを感じている中学生の回答の内訳（複数回答）

体力の面で大変 55.3

気持ちの面で大変 55.3

時間の余裕がない
(もっと自分のための
時間がほしい) 47.4

n = 38

高校生世代のお世話による生活への影響と感じている大変さ

結果の
ポイント

13

お世話をしている高校生世代の34.5%がお世話が理由で、やりたいことが出来ていない等、生活に影響が出ている。また、お世話をしている高校生世代の51.7%がお世話に大変さを感じていて、「気持ちの面で大変」が73.3%と最も高い。

【お世話により生活に影響が出ている高校生世代】 単位%

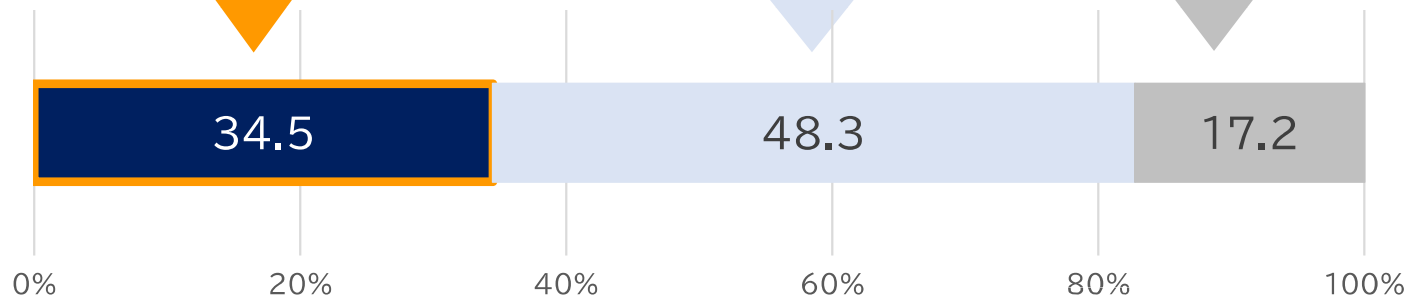


n = 29

お世話により生活に
影響が出ている 10人

特にな
い 14人

未回答
5人



【お世話を大変と感じている高校生世代】

単位%

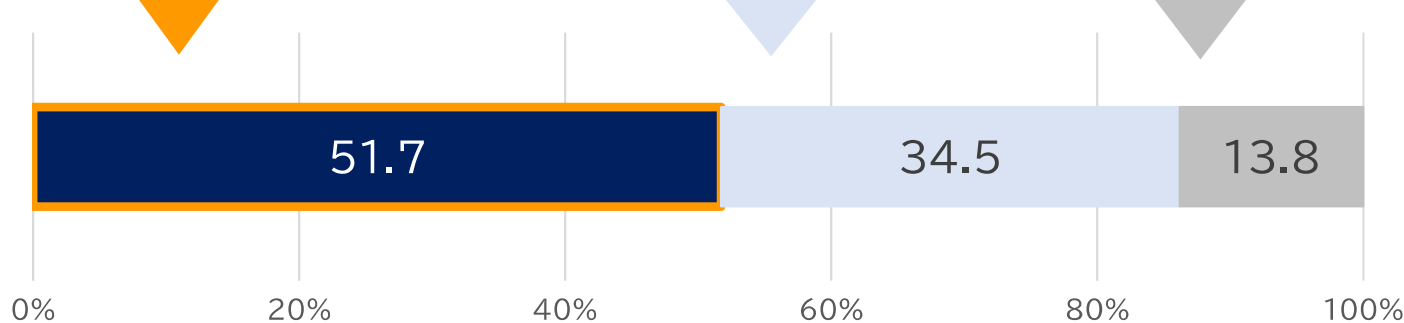


大変さを感じている
15人

特に大変さを感じて
いない 10人

未回答
4人

n = 29



大変さを感じている高校生世代の回答の内訳（複数回答）



小学生のお世話についての相談状況

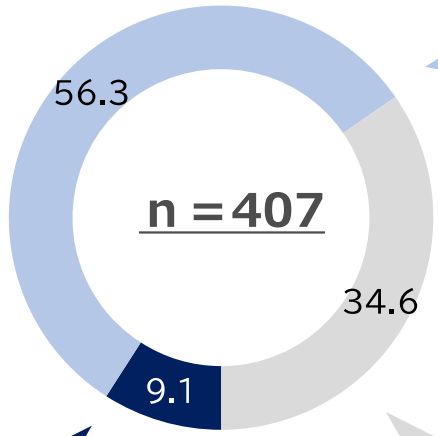
結果のポイント

14

お世話をしている小学生の56.3%が「お世話の相談をした経験がない」と回答。相談していない理由は「相談するほどの悩みではないから」が最も高い。相談の経験がある小学生は「家族」「友達」「学校の先生」への相談の割合が高い。

【お世話の相談の有無】

単位:%



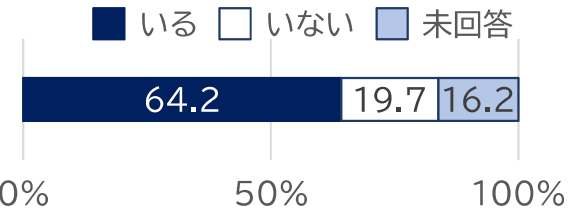
ない 229人

ある 37人

未回答141人

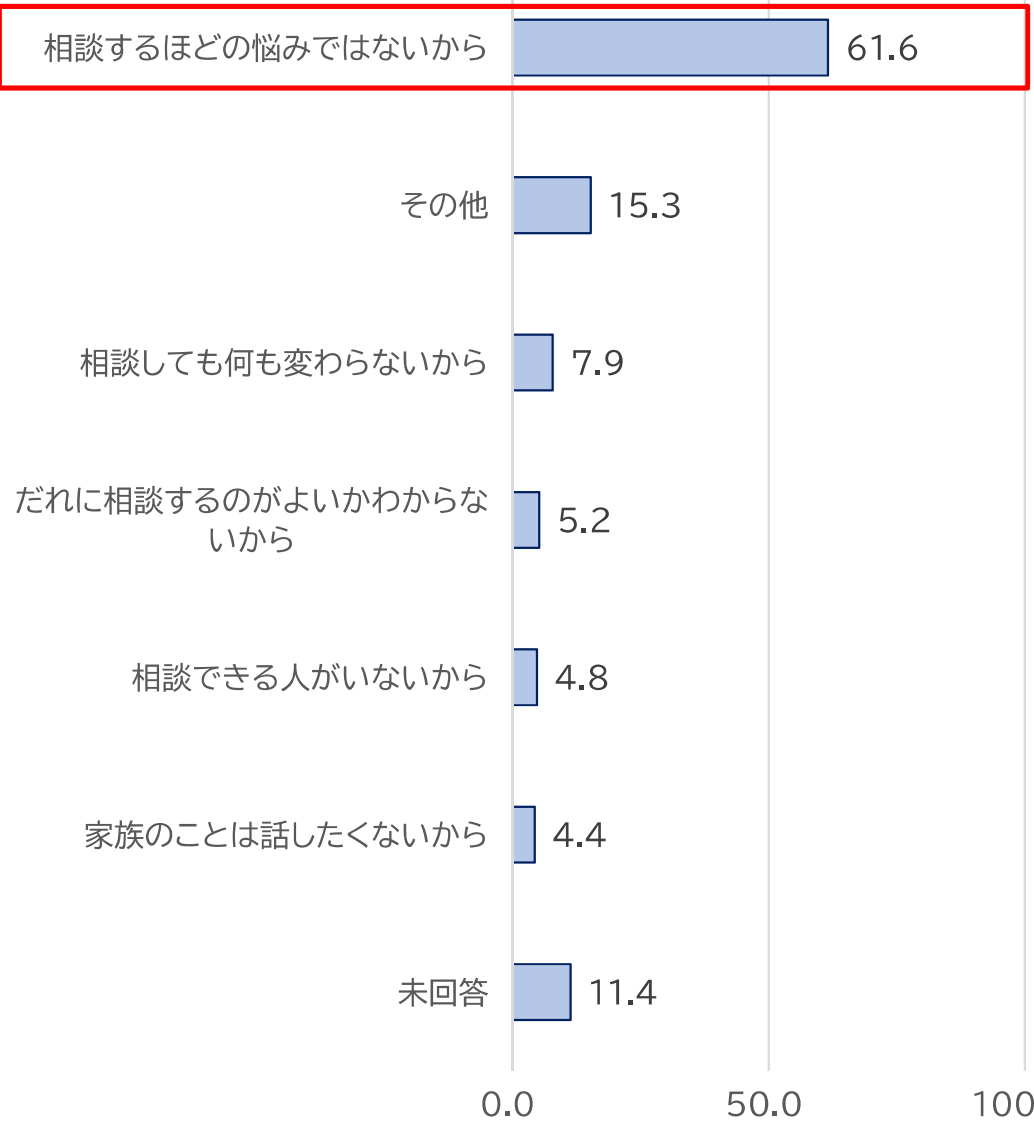
【お世話の相談相手の有無】

単位:%



相談していない理由 n=229

単位:%



誰に相談したか (複数回答・上位3種) n=37

- 1 家族※母・父・祖母・曾祖母・祖父・曾祖父・兄弟姉妹  **78.4%**
- 2 友だち  **32.4%**
- 3 学校の先生 ※保健室の先生以外  **13.5%**

■ 中学生のお世話についての相談状況

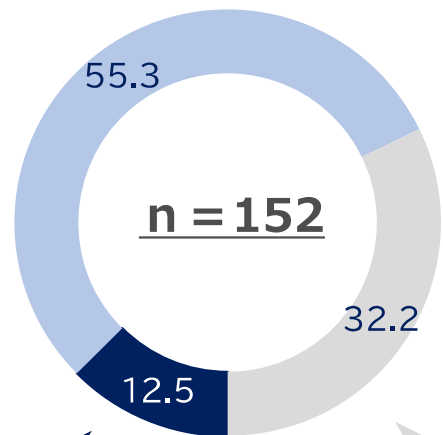
結果の
ポイント

15

お世話をしている中学生の55.3%が「お世話の相談をした経験がない」と回答。相談していない理由は「相談するほどの悩みではないから」が最も高い。相談の経験がある中学生は「家族」「友達」「学校の先生」への相談の割合が高い。

【お世話の相談の有無】

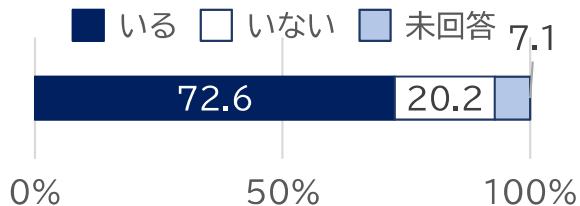
単位%



ない 84人

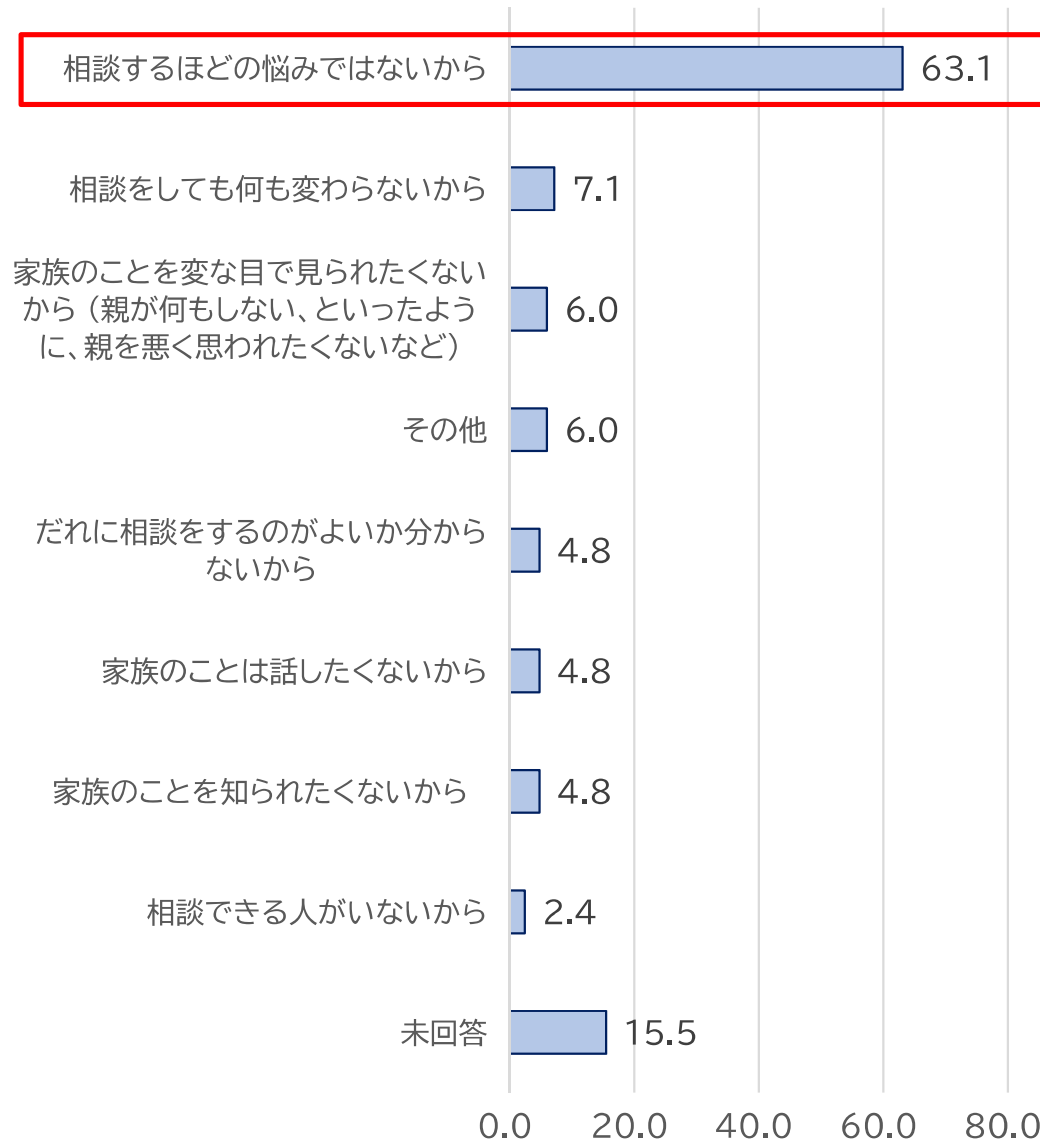
【お世話の相談相手の有無】

単位:%



相談していない理由 n=84

単位:%



誰に相談したか (複数回答・上位3種) n=19

1

家族※母・父・祖母・
曾祖母・祖父・
曾祖父・兄弟姉妹



63.2%

2

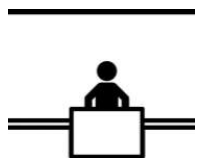
友だち



52.6%

3

学校の先生
※保健室の先生以外



26.3%

■ 高校生世代のお世話についての相談状況

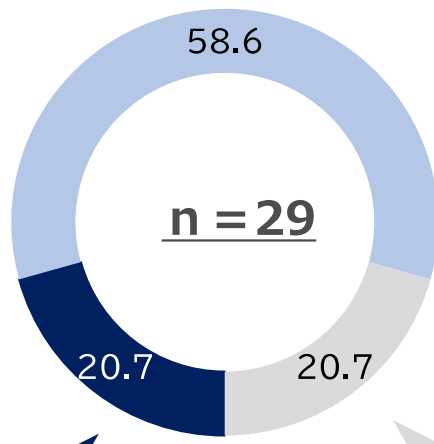
結果の
ポイント

16

お世話をしている高校生世代の58.6%が「お世話の相談をした経験がない」と回答。相談していない理由は「相談するほどの悩みではない」が最も高い。相談の経験がある高校生世代は「家族」「友達」「スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー」への相談の割合が高い。

【お世話の相談の有無】

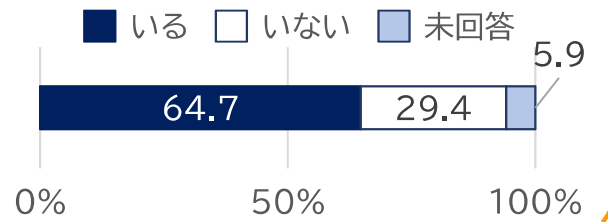
単位%



ない 17人

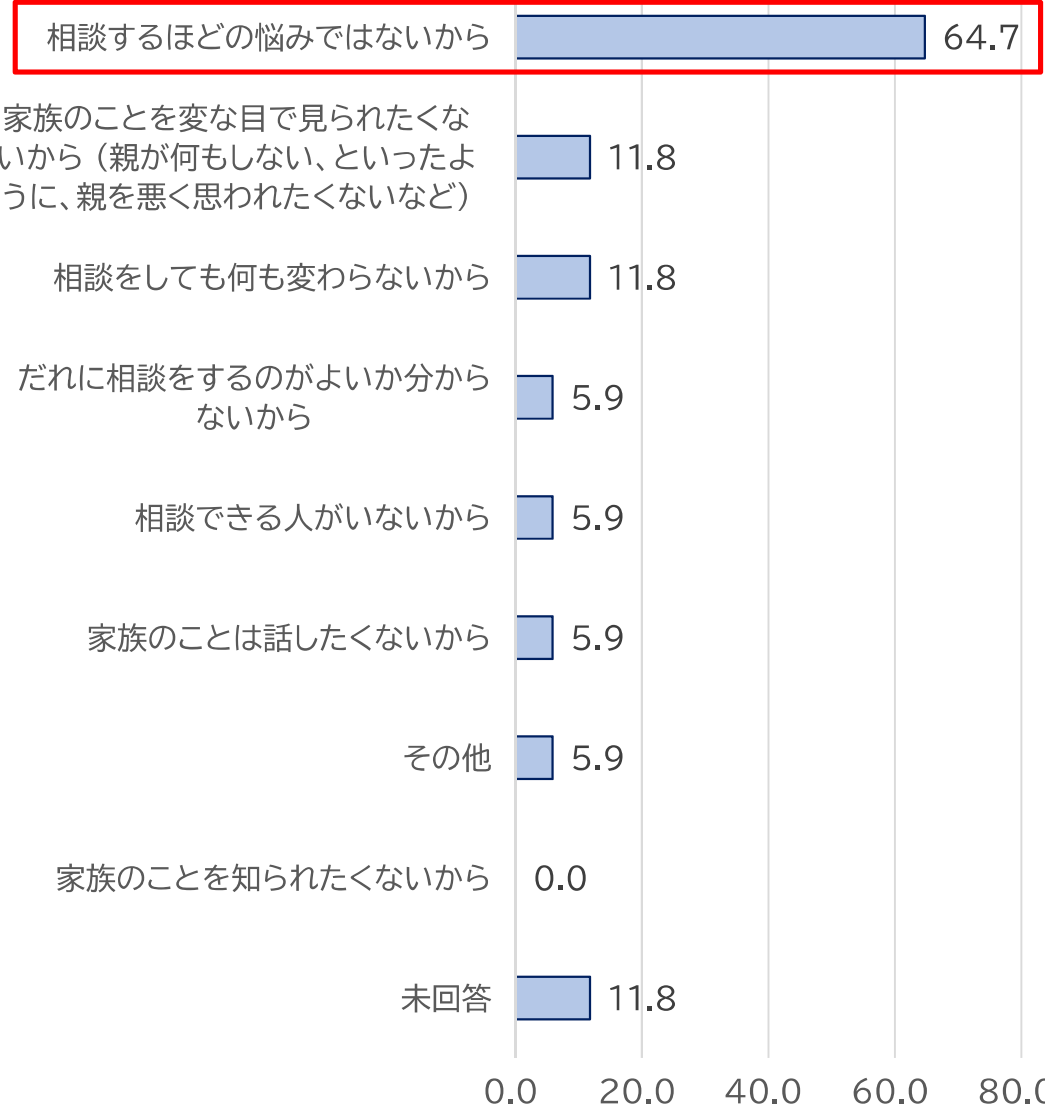
【お世話の相談相手の有無】

単位:%






相談していない理由 n=17

単位:%



誰に相談したか (複数回答・上位3種) n=6

- 1 家族※母・父・祖母・曾祖母・祖父・曾祖父・兄弟姉妹  **66.7%**
- 2 友だち  **66.7%**
- 3 スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー  **33.3%**

■ お世話をしている小学生の求める助けや支援・希望する相談方法

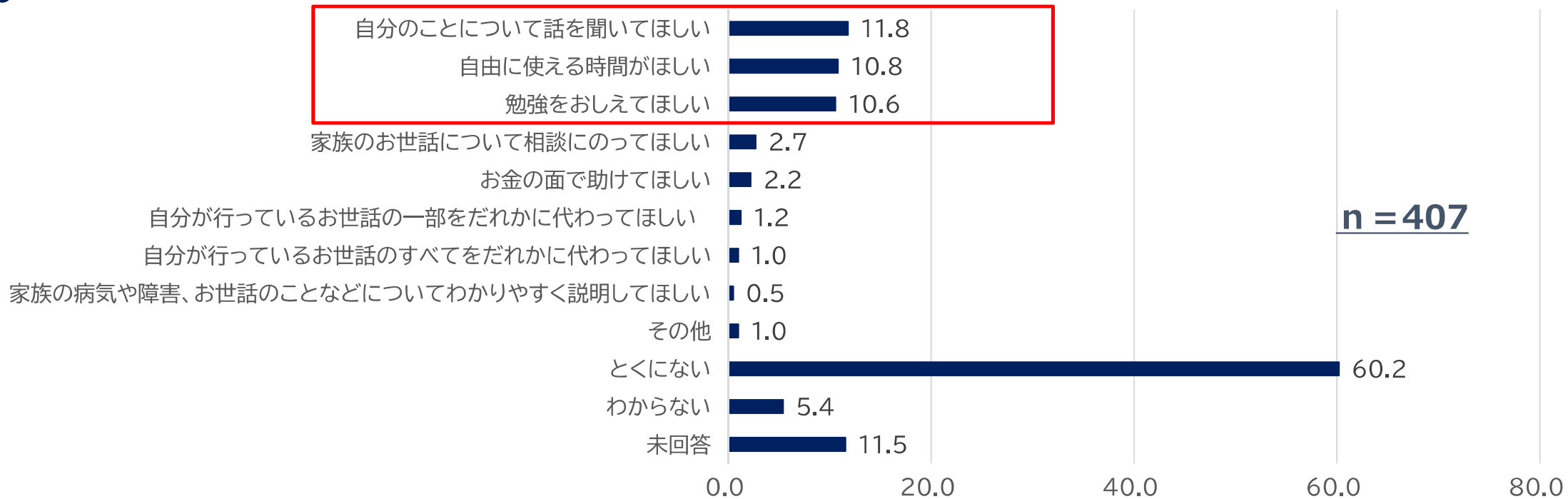
結果の
ポイント

17

小学生は「自分のことについて話を聞いてほしい」「自由に使える時間がほしい」「勉強をおしえてほしい」等の助けや支援を求める割合が高い。また、相談方法は「直接会って話したい」「SNS」「電話」等の割合が高い。

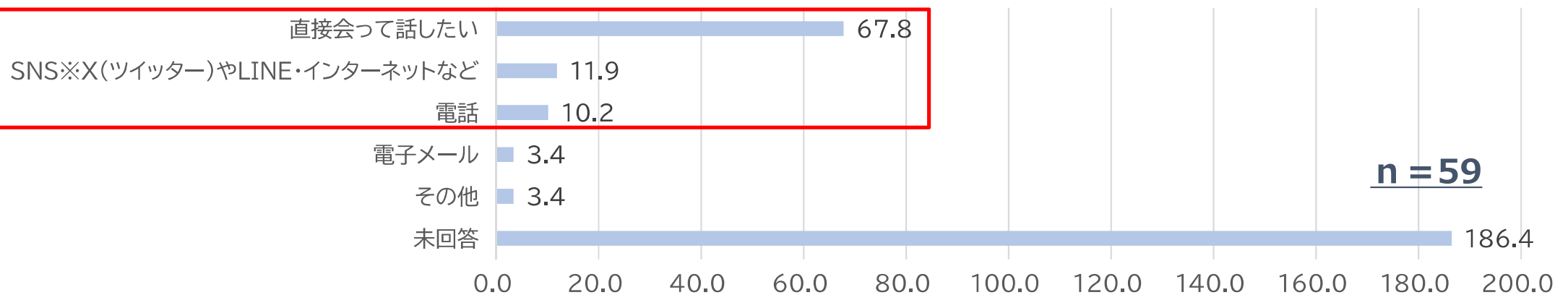
【学校や周りの大人に助けてほしいことや必要としている支援】

単位:%



【どのようなやり方で話や相談をしたいか】

単位:%



■ お世話をしている中学生の求める助けや支援・希望する相談方法

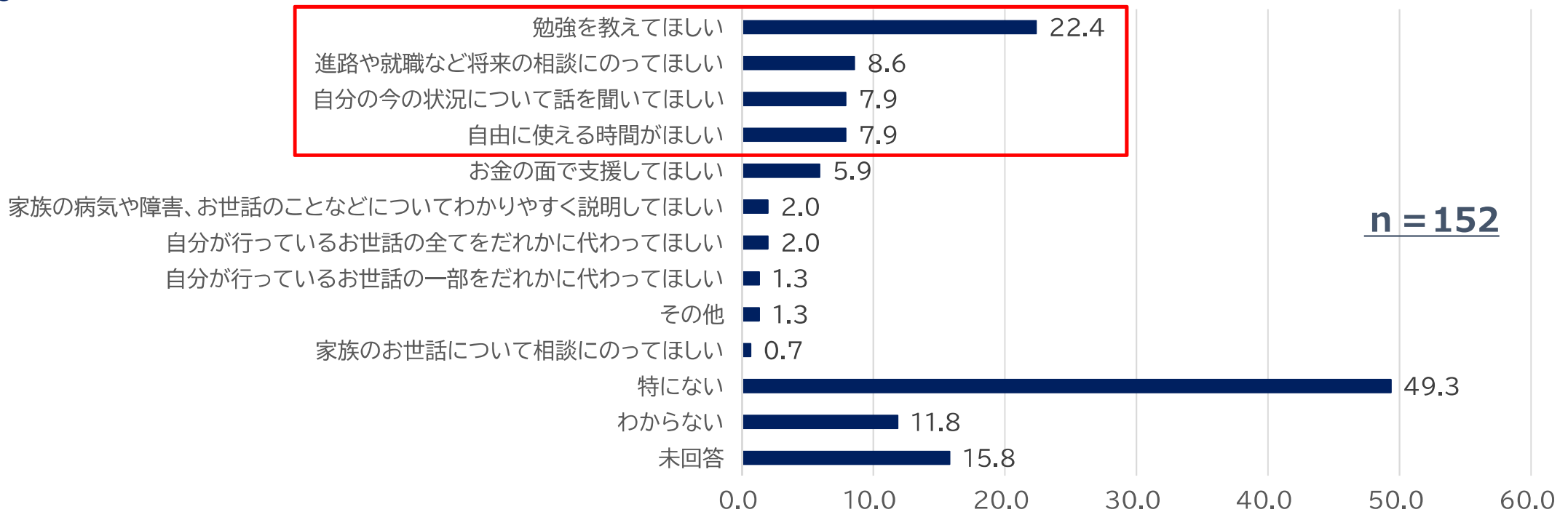
結果の
ポイント

18

中学生は「勉強を教えてほしい」「進路や就職など将来の相談にのってほしい」「自分の今の状況について話を聞いてほしい」「自由に使える時間がほしい」等の助けや支援を求める割合が高い。また、相談方法は「直接会って話したい」「SNS」等の割合が高い。

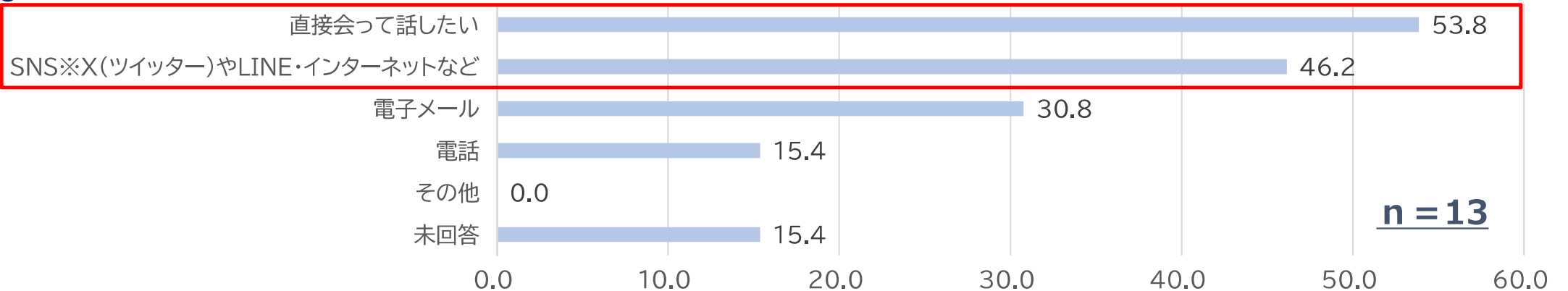
【学校や周りの大人に助けてほしいことや必要としている支援】

単位:%



【どのようなやり方で話や相談をしたいか】

単位:%



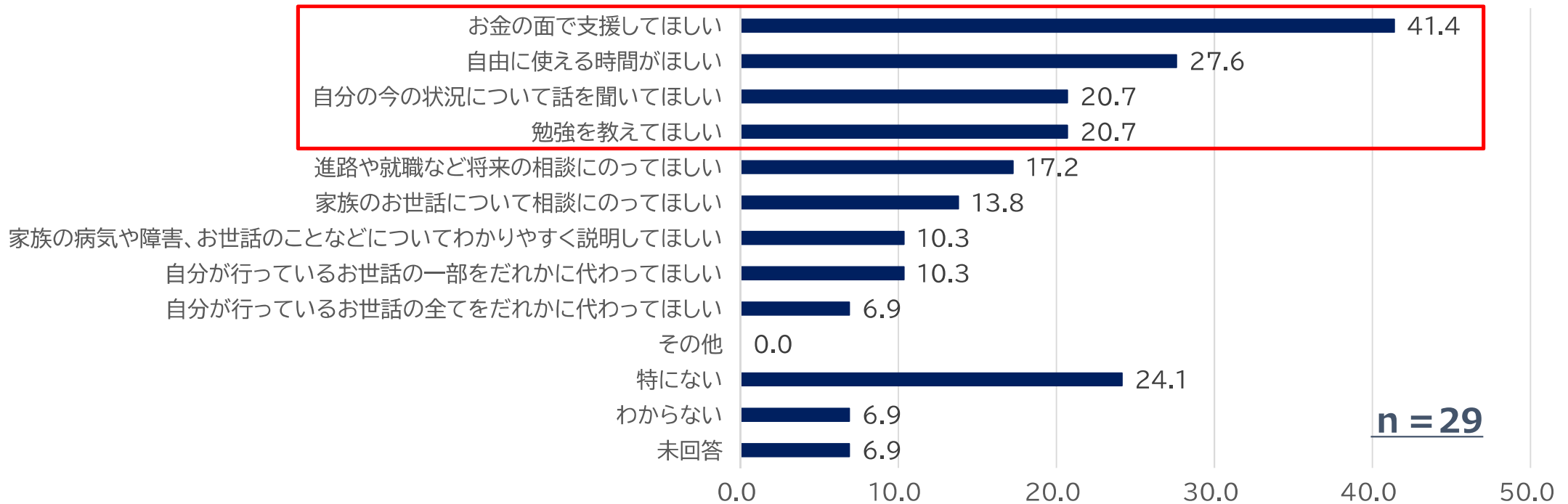
■ お世話をしている高校生世代の求める助けや支援・希望する相談方法

結果の
ポイント

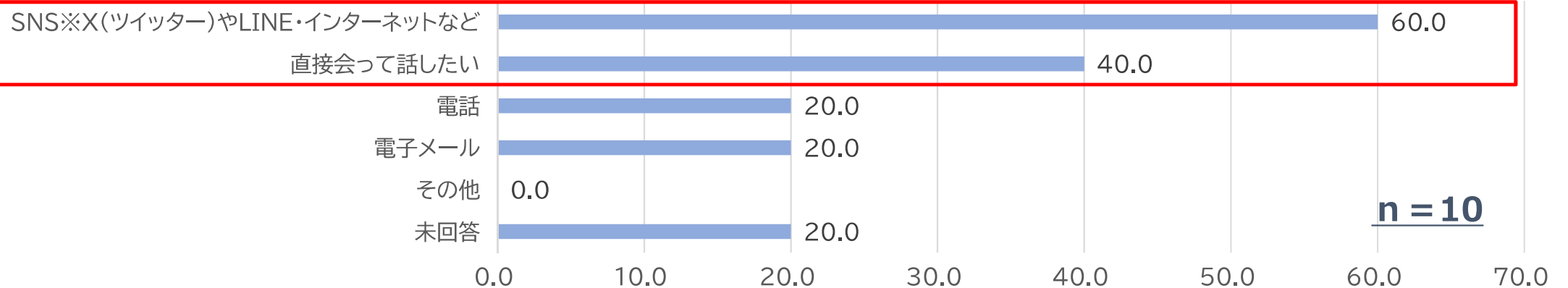
19

高校生世代は「お金の面で支援してほしい」「自由に使える時間が欲しい」「自分の今の状況について話を聞いてほしい」「勉強を教えてほしい」等の助けや支援を求める割合が高い。また、相談方法は「SNS」「直接会って話したい」等の割合が高い。

【学校や周りの大人に助けてほしいことや必要としている支援】 単位:%



【どのようなやり方で話や相談をしたいか】 単位:%

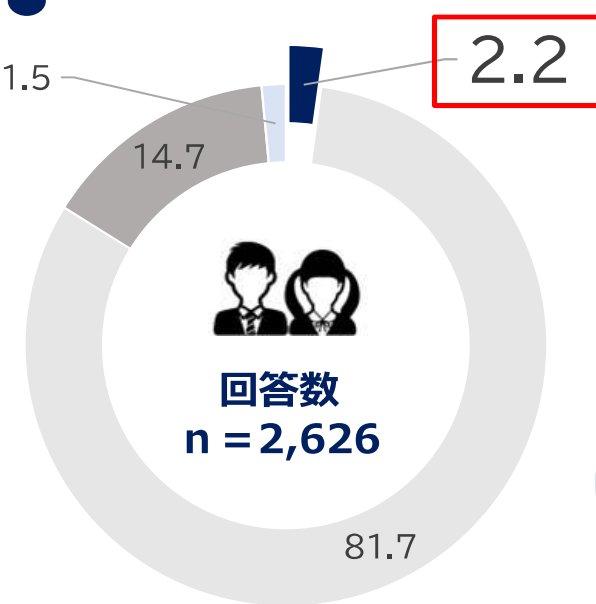


■ ヤングケアラーにあてはまるか ※中学生と高校生世代のみに質問

問. あなたは「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。
 ※右記のこども家庭庁のヤングケアラーイメージイラストを提示した



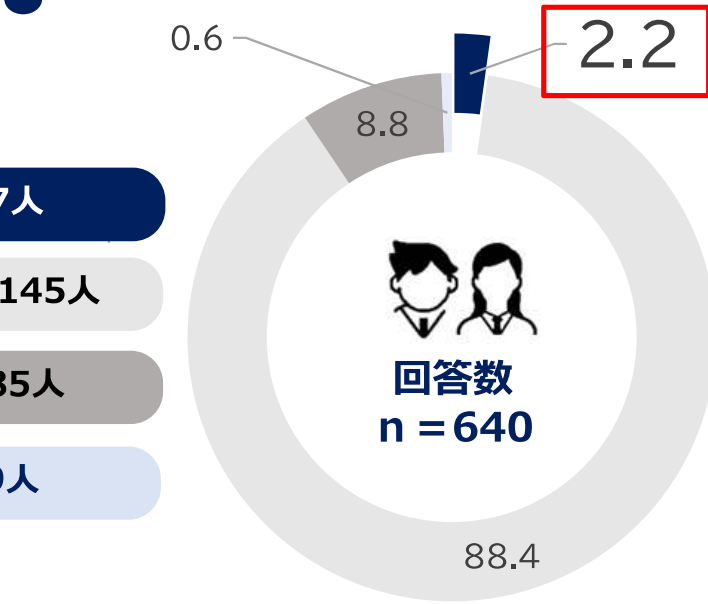
【中学生】 単位：%



回答数 n = 2,626

あてはまる	57人
あてはまらない	2,145人
わからない	385人
未回答	39人

【高校生世代】 単位：%

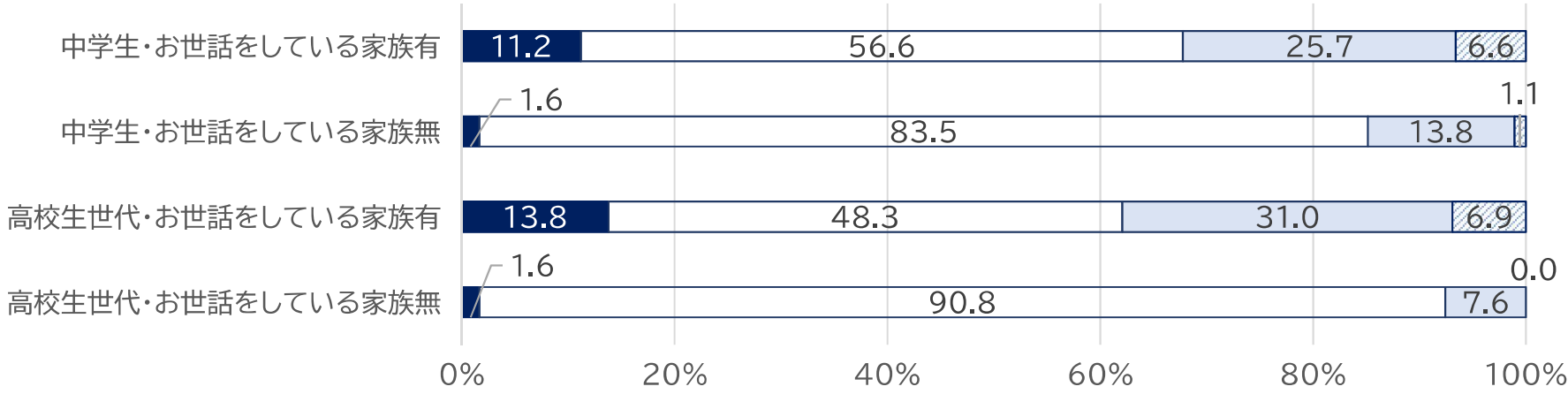


回答数 n = 640

あてはまる	14人
あてはまらない	566人
わからない	56人
未回答	4人

【お世話の相手の有無×ヤングケアラーにあてはまるか：クロス分析】 単位：%

■ あてはまる □ あてはまらない ■ わからない・答えたくない ▨ 未回答



■ 中学生
 お世話有：n=152
 お世話無：n=2,459
 ■ 高校生世代
 お世話有：n=29
 お世話無：n=607

■ ヤングケアラーの認知度と認知経路 ※中学生と高校生世代のみに質問

結果の
ポイント

20

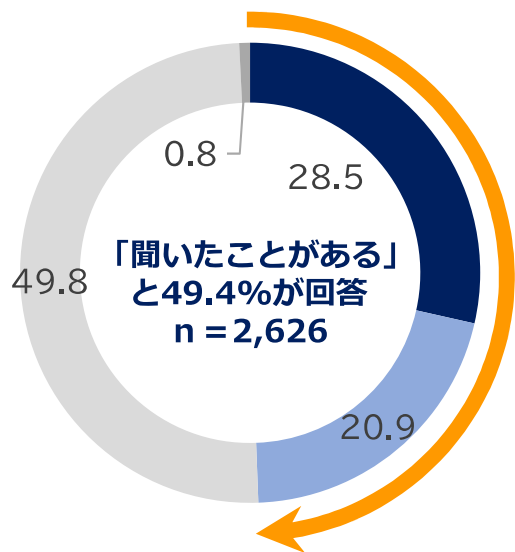
中野区の中学生49.4%、高校生世代74.6%が「ヤングケアラーという言葉が『聞いたことがある』」と回答。認知の経路は「テレビや新聞、ラジオ」「SNS※X(ツイッター)やLINE・インターネットなど」「学校」の割合が高い。

問.「ヤングケアラー」という言葉を、これまでに聞いたことがありましたか。

- 聞いたことがあり、内容も知っている
- 聞いたことはあるが、よく知らない
- 聞いたことはない
- 未回答

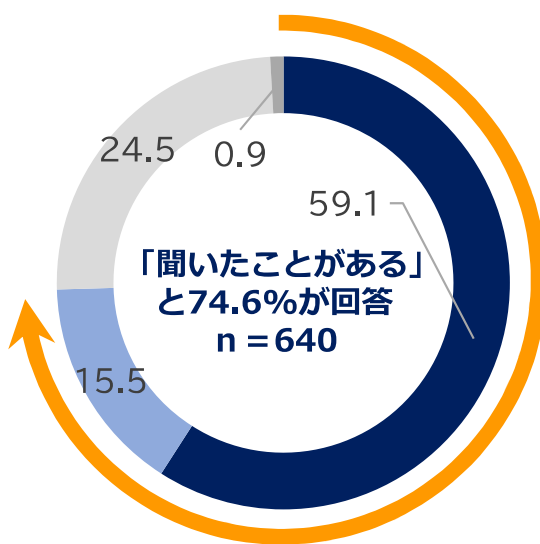
【中学生】

単位：%



【高校生世代】

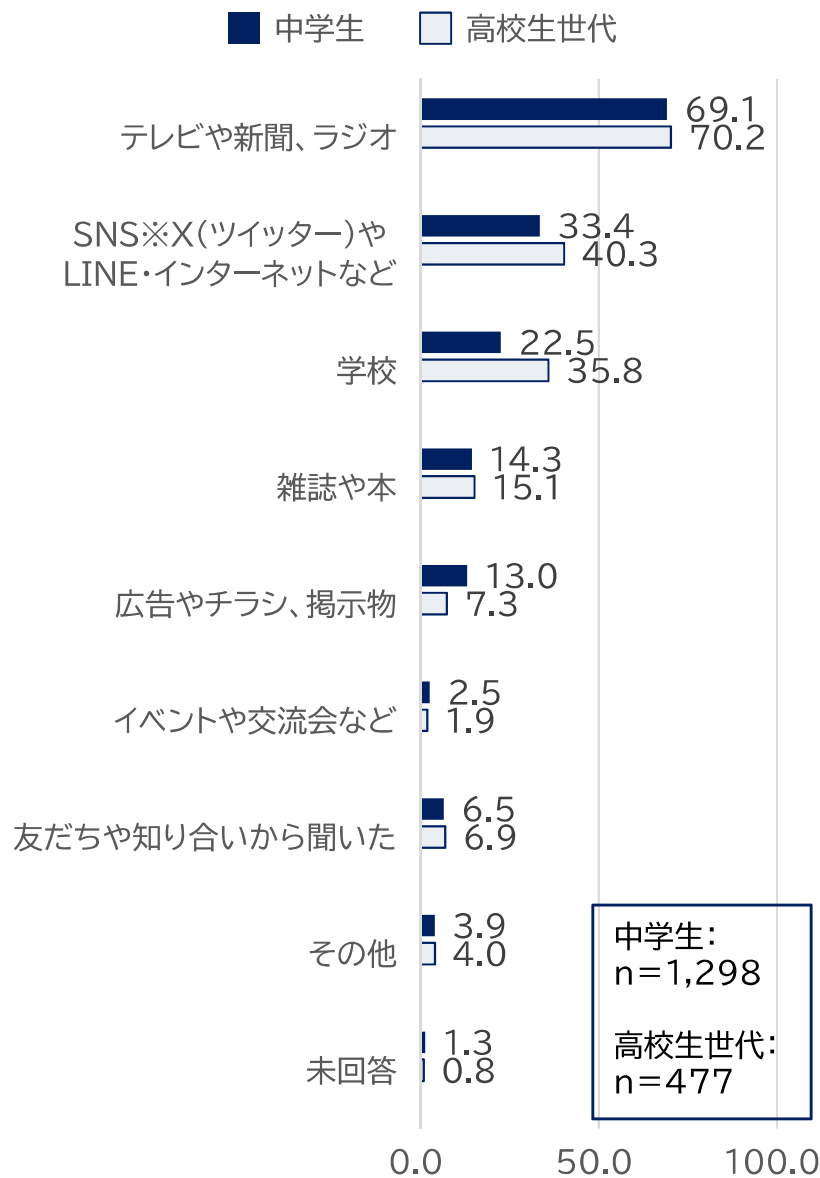
単位：%



中学生：
n=2,626
高校生世代：
n=640

【認知の経路】

単位：%



中学生：
n=1,298
高校生世代：
n=477

自由記述集計

■ 自由記述の集計について

「家族のお世話をしている子どもやヤングケアラーのために、必要だと思うこと、学校や周りの人にしてもらいたいこと、悩みや区役所にやってほしいことなど、何でも入力してください。」という問いについて、自由意見を求めたところ、多くの自由意見が寄せられた為キーワードとキーセンテンスによる分類を行った。

NO	項目	分類	内容(キーワード・キーセンテンス)
0		区や学校への設備・環境・制度への要望	中野区の設備、環境、用具、制度などへの感想・要望・意見など
1		感想・意見・要望	学校や中野区に求める感想や意見、要望やアンケートを通じて感じたことなど
2		アンケートについて	アンケートに対する感想や意見など
3		相談・悩み・強い意見	子どもからの話を聞いてほしい・理解してほしい・助けてほしい・悩みなどの声など
4		お世話をしている子どもの声	お世話をしている家族がいると回答した児童・生徒の意見・要望・求める支援など
5	ヤングケアラーに必要な支援	相談に関わる内容	子どもの意見を伝えられる話しやすい環境づくり、相談しやすい体制や制度の充実、相談をすることなど
6		施設・物品などの支援	施設の設立、施設の提供や補助、物品の支援など
7		気づき・声掛け・ヒアリング	周囲の理解、気遣い、配慮、声掛けや見守り、やさしさ、子どもの意思の尊重や大人の助けなど
8		人や制度の支援	学校・施設・区からのサポートや人の支援・支援制度・ボランティアの充実など
9		お金の支援	支援金・募金・補助金など
10		認知度・理解度の向上	ヤングケアラーの概念を知ってもらうこと
11		その他	その他の支援
12		普及啓発	ヤングケアラーの普及啓発や認知度の向上に必要なことや方法
13		特にない	特にない・わからない・悩んでいない・ない等
14		判別不能	判別不能

■ 小学生の自由記述のキーワードとキーセンテンスによる分類

結果の
ポイント

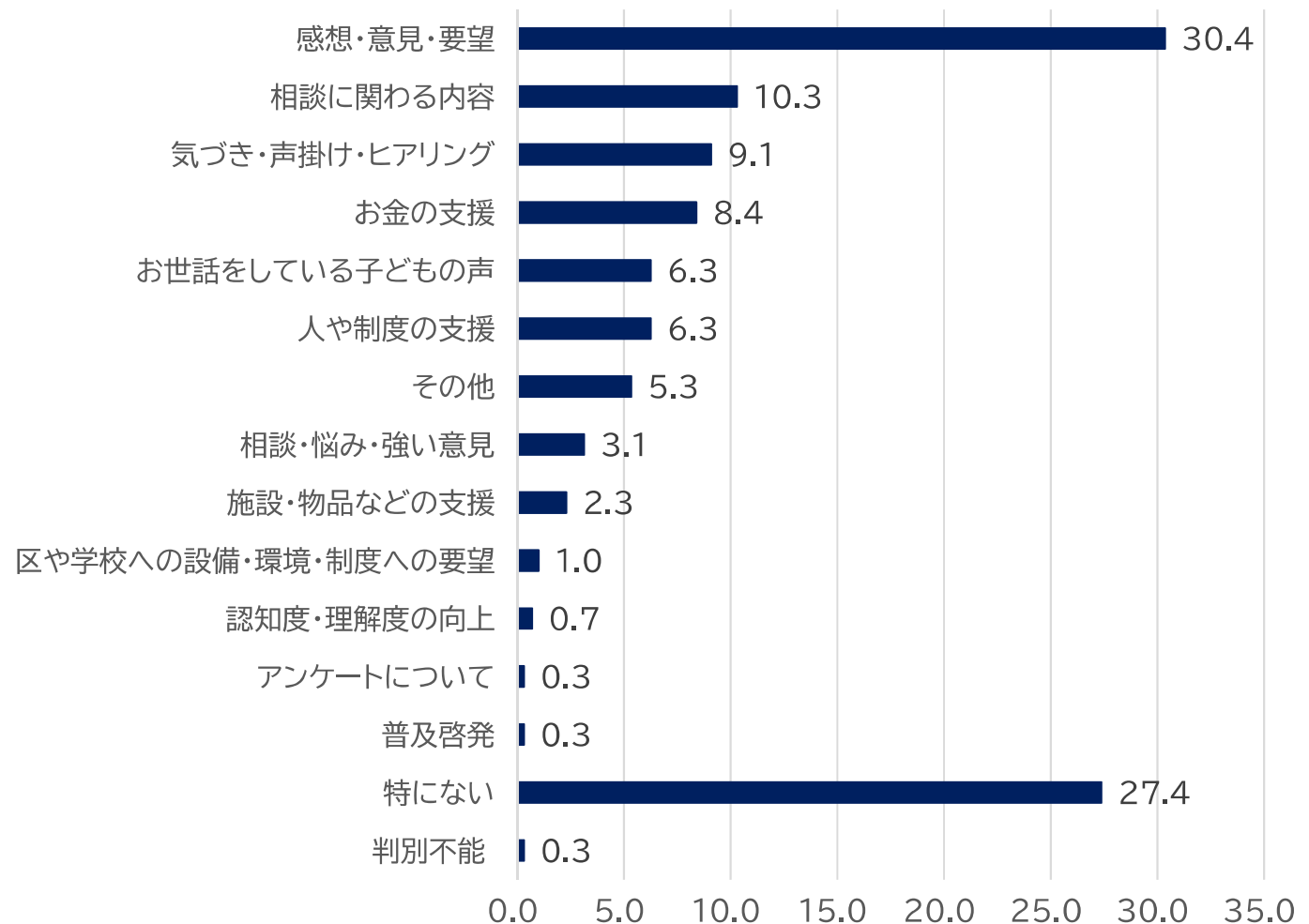
21

1,311件の自由記述の内容を、分類別に見ると「感想・意見・要望」30.4%が最も高く、次いで「相談に関わる内容」10.3%「気づき・声かけ・ヒアリング」9.1%「お金の支援」8.4%と大人や周りの人へ、サポートを求める回答内容の割合が高い。

【自由記述の傾向】

単位：%

分類	割合
感想・意見・要望	30.4
相談に関わる内容	10.3
気づき・声掛け・ヒアリング	9.1
お金の支援	8.4
お世話をしている子どもの声	6.3
人や制度の支援	6.3
その他	5.3
相談・悩み・強い意見	3.1
施設・物品などの支援	2.3
区や学校への設備・環境・制度への要望	1.0
認知度・理解度の向上	0.7
アンケートについて	0.3
普及啓発	0.3
特にない	27.4
判別不能	0.3



n = 1,311

※自由記述を「キーワード」「キーセンテンスから」15分類に分け、表・グラフの通り、整理・分析を行った。

■ 中学生の自由記述のキーワードとキーセンテンスによる分類

結果の
ポイント

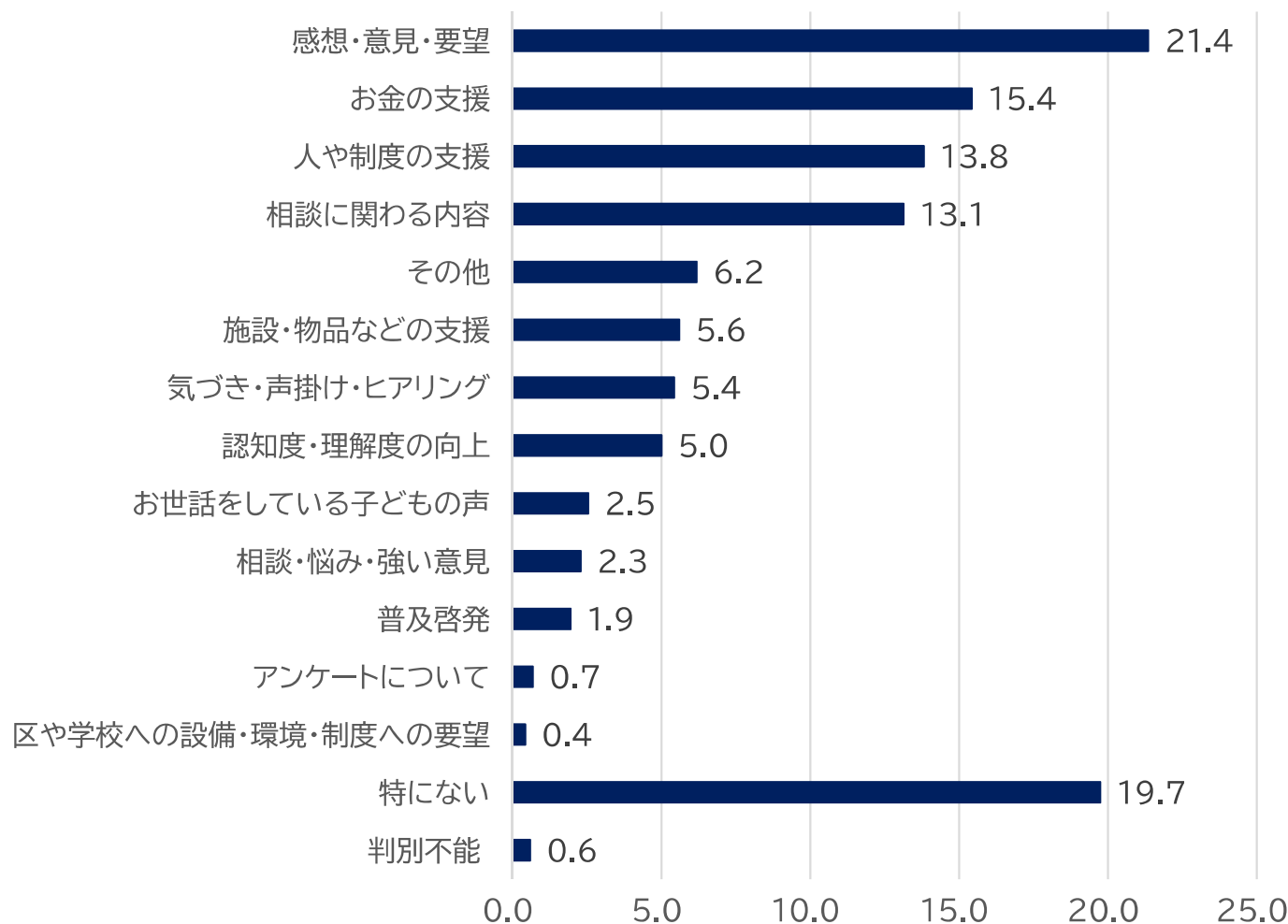
22

1,180件の自由記述の内容を、分類別に見ると「感想・意見・要望」21.4%が最も高く、次いで「お金の支援」15.4%「人や制度の支援」13.8%「相談に関わる内容」13.1%と具体的な支援や相談に係る回答内容の割合が高い。

【自由記述の傾向】

単位：%

分類	割合
感想・意見・要望	21.4
お金の支援	15.4
人や制度の支援	13.8
相談に関わる内容	13.1
その他	6.2
施設・物品などの支援	5.6
気づき・声掛け・ヒアリング	5.4
認知度・理解度の向上	5.0
お世話をしている子どもの声	2.5
相談・悩み・強い意見	2.3
普及啓発	1.9
アンケートについて	0.7
区や学校への設備・環境・制度への要望	0.4
特にない	19.7
判別不能	0.6



n = 1,180

※自由記述を「キーワード」「キーセンテンスから」15分類に分け、表・グラフの通り、整理・分析を行った。

■ 高校生世代の自由記述のキーワードとキーセンテンスによる分類

結果の
ポイント

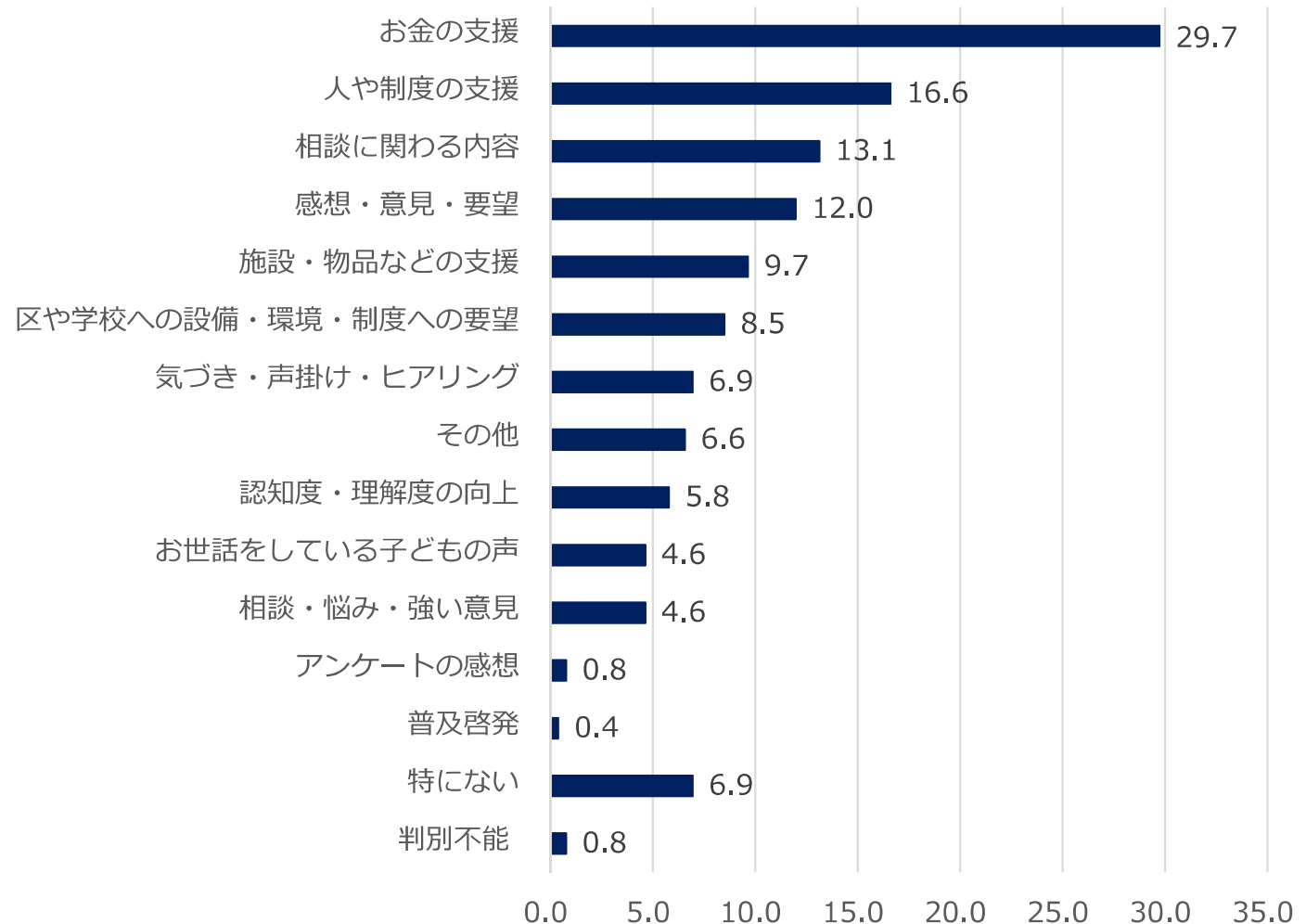
23

259件の自由記述の内容を、分類別に見ると「お金の支援」29.7%が最も高く、次いで「人や制度の支援」16.6%「相談に関わる内容」13.1%「感想・意見・要望」12.0%「施設・物品などの支援」9.7%と具体的な支援についての回答内容の割合が高い。

【自由記述の傾向】

単位：%

分類	割合
お金の支援	29.7
人や制度の支援	16.6
相談に関わる内容	13.1
感想・意見・要望	12.0
施設・物品などの支援	9.7
区や学校への設備・環境・制度への要望	8.5
気づき・声掛け・ヒアリング	6.9
その他	6.6
認知度・理解度の向上	5.8
お世話をしている子どもの声	4.6
相談・悩み・強い意見	4.6
アンケートの感想	0.8
普及啓発	0.4
特にない	6.9
判別不能	0.8



n = 259

※自由記述を「キーワード」「キーセンテンスから」15分類に分け、表・グラフの通り、整理・分析を行った。

調査結果とりまとめ

■ ヤングケアラーと思われる子どもについて①

分析の ポイント

1

お世話をしている家族が「いる」と回答した小学生は16.9%（5人に1人）、中学生5.8%（17人に1人）、高校生世代は4.5%（22人に1人）。国と比較すると割合が高い為に追加分析を行い、「ヤングケアラーと思われる子どもの推定割合(5.0%)」を算出した。

お世話をしている家族が「いる」と回答した中野区の小学生の調査結果は、国の調査結果（6.5%・15人に1人）に比べて高い傾向がみられ、中学生の調査結果は、国の調査結果（5.7%・17人に1人）とほぼ同じ割合、高校生世代の調査結果は、国の調査結果（4.1%・24人に1人）に比べてやや高い傾向がみられた。（図表1-A）

国の調査報告では、子どもが「お世話をしている」という回答には、「お手伝いの範囲としてのお世話をしている」と「ヤングケアラーとしてのお世話をしている」が混在している可能性が指摘されており、本区の小学生の回答においては、特にそれが顕著にあらわれた可能性がある。

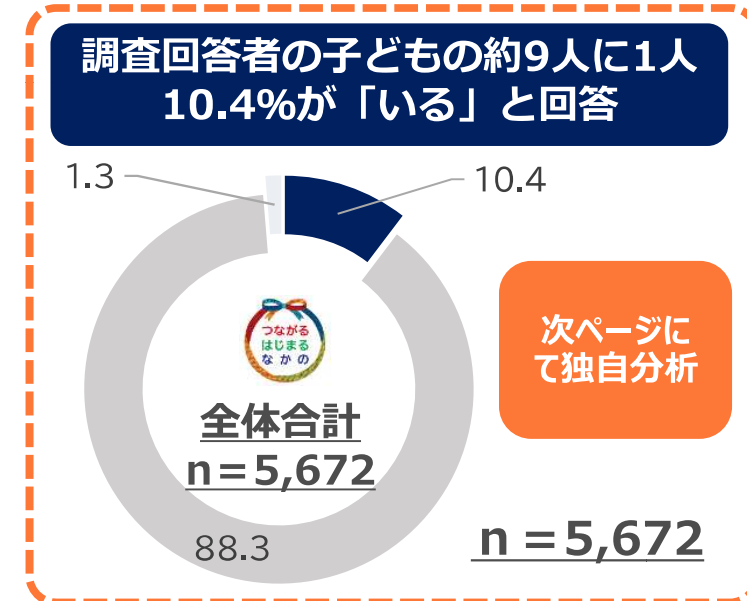
しかし、今回の調査方法や内容では、子ども（特に小学生）が「お手伝いの範囲としてのお世話をしている」と「ヤングケアラーとしてのお世話をしている」を混在しているかについては明確にできなかった。

また次ページにて、調査対象の中野区の子どもを全体のアンケート結果を基に、こども家庭庁ホームページのヤングケアラー定義を参考にヤングケアラーと思われる子どもの推定条件付けを行い、独自に数値を抽出・分析を行った。（図表1-Bと次ページ図表1-C）

■図表1-A 中野区と国のお世話をしている子どもの人数と割合の比較

	中野区		国	
	何人に1人がお世話をしているか	割合	何人に1人がお世話をしているか	割合
小学生	5人	16.9%	15人	6.5%
中学生	17人	5.8%	17人	5.7%
高校生世代	22人	4.5%	24人	4.1%

■図表1-B 中野区の調査回答者全体のお世話の有無の割合(単位:%)



■ ヤングケアラーと思われる子どもについて②

こどもまんなか
こども家庭庁

こども家庭庁ホームページの下記ヤングケアラー定義を参考に
ヤングケアラーと思われる子どもの推定条件付けを行い、独自に数値を抽出した

- ①本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを②日常的に行っているこどものこと。
③責任や負担の重さにより、学業や友人関係などに影響が出てしまうことがあります。

こども家庭庁が定義する条件設定を①～③の要素に分けて分析すると、要素①と②にあてはまる「**ヤングケアラーと思われる子ども**」は小学4年生～高校生世代の調査対象全体の**5.0% (281人)**、要素①と②と③にあてはまる「**何らかの影響が出ていて、支援が急がれる子ども**」は**1.4% (82人)**と推定される。(図表1-C)

■図表1-C 中野区のヤングケアラーと思われる子どもの割合

支援が
急がれる
子ども

要素①：お世話をしている家族が「いる」子ども 10.4% 588人

要素① お世話をしている家族が「いる」子ども			
	小学生	16.9%	407人
	中学生	5.8%	152人
	高校生世代	4.5%	29人

要素①+②：ヤングケアラーと思われる子ども 5.0% 281人

要素① お世話をしている家族が「いる」子ども			
要素①	小学生	7.9%	191人
要素② お世話を「週3日以上」又は「週2日以下だが1日あたり3時間以上」行っている子ども	中学生	2.9%	75人
	高校生世代	2.3%	15人

要素①+②+③：何らかの影響が出ていて支援が急がれる子ども 1.4% 82人

要素①+②の「ヤングケアラーと思われる子ども」の中でお世話をしているためにやりたいけどできないことがある(1つ以上に該当)子ども			
	小学生	2.2%	52人
	中学生	0.9%	24人
	高校生世代	0.9%	6人

有効回答数 (= n) :
調査対象の回答者全体
小学4年生～高校生世代 5,672人

■ 「お世話をしている」 = 「ヤングケアラー」ではない可能性について

分析の ポイント

2

「お世話をしている」と回答した割合が中学生5.8%、高校生世代4.5%となった結果に比べて、「自分はヤングケアラーにあてはまる」と回答した割合は中学生2.2%、高校生世代2.2%と割合が低く、「お手伝い」として家事や家族のお世話をしている子どもが一定数いる。

本調査においては、国と同様の方法でまず「家族のお世話」の有無、またその状況について質問している。そのうえで、中学生・高校生世代に対して「ヤングケアラーの状態像」をイラストにて示し、回答者自身がヤングケアラーに該当すると思うかを質問している。

中野区の「お世話をしている」と回答した中学生5.8%、高校生世代4.5%となった結果に比べて、中野区の「自分はヤングケアラーにあてはまる」と回答した割合は中学生2.2%、高校生世代2.2%となり、各世代において割合が低くなっている。(図表2-A)

これは「お世話をしている」と回答した子どもの中には、ヤングケアラーとして定義される「お世話を要する家族がいる」、あるいは「大人が担うようなお世話の責任を引き受けている」とまでは言えない、子どもが行う範囲内の「お手伝い」として家事や家族のお世話をしている子どもが一定数含まれていると推察される。

この点は「お世話をしている」かつ「自分はヤングケアラーにあてはまる」と回答した割合についての結果が、国の中学2年生16.3%、全日制高校2年生15.0%、定時制高校2年生相当25.8%と比較すると、中野区は中学生11.2%、高校生世代13.8%と、各世代において割合が低くなっている事からも、「お手伝い」として家事や家族のお世話をしている子どもが、「お世話をしている」と回答した子どもの中に一定数含まれている可能性がある」と推察できる。

反面、子ども自身が「お手伝いの範囲としてのお世話をしている」と「ヤングケアラーとしてのお世話をしている」かを明確に判別できていない可能性や、自身がヤングケアラーであることを気づいていない・認めたくないと考えている子どもがいる可能性も推察できる為、今後は「ヤングケアラーの認知度の向上」や「支援や気づき等の周りのサポート」についても十分に配慮した支援策を検討していく必要がある。

■図表2-A 中野区と国の「ヤングケアラーにあてはまる」と回答した子どもの割合の比較(単位:%)

	アンケートに回答した子どもで		お世話をしていると回答した子どもで	
	ヤングケアラーにあてはまると回答		ヤングケアラーにあてはまると回答	
	中野区	国	中野区	国
中学生	2.2	1.8	11.2	16.3
高校生世代	2.2	2.3	13.8	15.0

■ 中学生と高校生世代の「ヤングケアラー」の認知度について

分析の ポイント

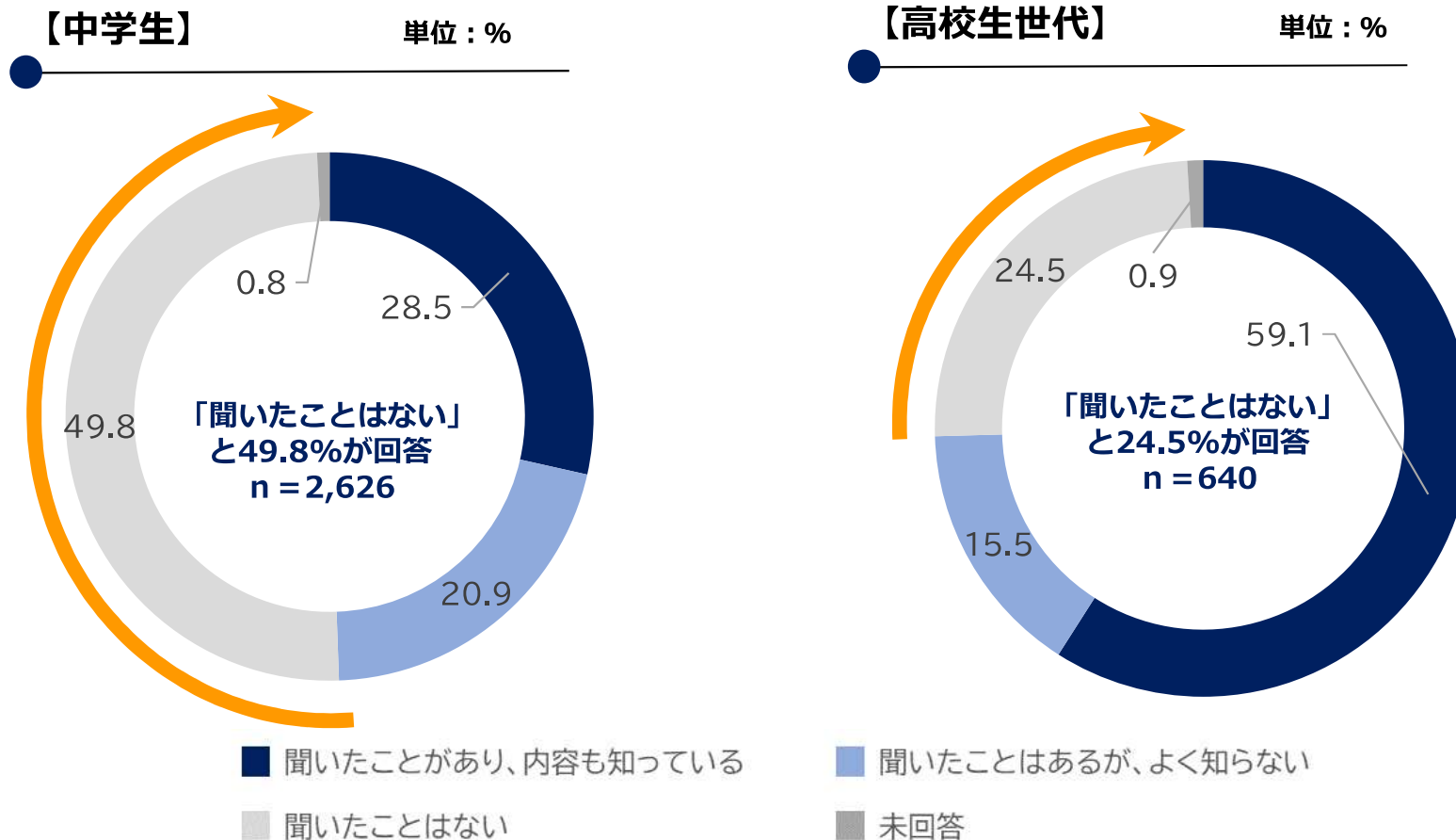
3

中学生49.8%、高校生世代24.5%が「ヤングケアラーという言葉が『聞いたことはない』」と回答。中学生の約半分、高校生世代の約4分の1が「ヤングケアラー」という言葉を知らない為、言葉や定義について認知度の向上が必要である。

「ヤングケアラー」の概念を知っている割合は、国の調査結果における中学2年生15.1%、全日制高校2年生12.6%、定時制高校2年生相当13.7%の割合と比べて非常に高く、中野区においては「ヤングケアラー」の認知度は高まっているといえる。

一方、中高生で49.8%、高校生世代で24.5%は「聞いたことはない」という回答があり、ヤングケアラーの自己認識がないまま、ヤングケアラーとして定義される「お世話をしている」可能性もあり、より正確なヤングケアラーの実態把握の為には、より広く「ヤングケアラー」の認知度を高めることが必要である。(図表3-A)

■図表3-A 中学生と高校生世代の「ヤングケアラー」の認知度についての割合



■ 子どもの成長に伴い「お手伝い」が「お世話」となる可能性について

分析の ポイント

4

「お世話により生活に影響が出ている」と「何かしらの大変さを感じている」と回答した子どもの割合は高校生世代になると高くなる。「家族のお手伝い」と「家族のお世話」の判別は非常に難しい為、子どもを注意深く見守る必要がある。

1日あたりにお世話に費やす時間については、小学生平均2.8時間、中学生平均3.2時間、高校生世代平均3.6時間であった。これは各世代全てが国の小学6年生平均2.9時間、中学2年生平均4.0時間、全日制高校2年生平均3.8時間と比べて短い。年齢が高くなればなるほど、お世話をしている時間は長時間化している。(図表4-A)

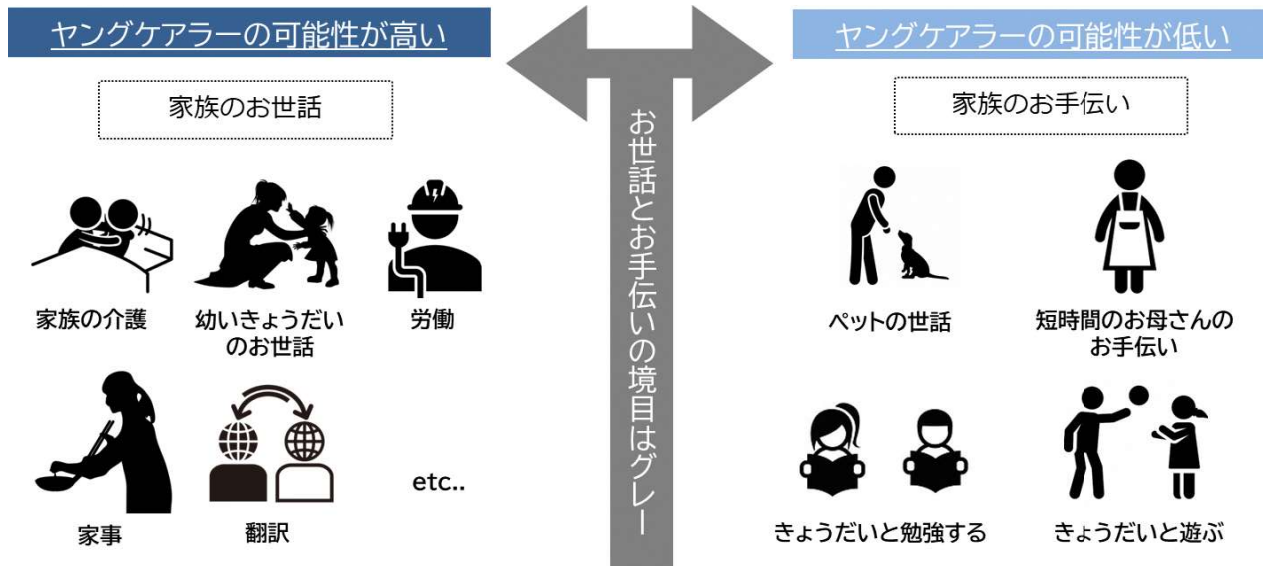
そして、「お世話により生活に影響が出ている」と回答した小学生は20.1%、中学生は19.7%であるが、高校生世代になると34.5%と割合が高くなる。また、お世話をしている子どもがお世話をする事で「何かしらの大変さを感じている」小学生は26.0%、中学生は25.0%であるのに対して、高校生世代の51.7%が大変さを感じており、お世話の時間が長時間化することで、子どもが普段やりたいことが出来ていない等、生活に影響が出てくる可能性が成長とともに高くなると推察できる。(参照：結果のポイント11~13)

これは、小学生や中学生の時は「家族のお手伝い」として行っていた内容が、高校生世代になり、お手伝いの時間が長時間化することで「家族のお世話」として子どもの負担になってくる可能性がある」と推察できる。さらに子どもは「お世話」も短時間であったり、本人が大変さを感じていなければ「お手伝い」と考え、反対に「お手伝い」も長時間であったり、大変さを感じていれば「お世話」となる為に「家族のお手伝い」と「家族のお世話」の境目はグレーゾーンであり子どもへの注意深い見守りが必要である。(図表4-B)

■図表4-A お世話をしている平均時間の比較(単位:時間) ■図表4-B 「家族のお世話」と「家族のお手伝い」のイメージ図

	中野区	国
小学生	2.8	2.9
中学生	3.2	4.0
高校生世代	3.6	3.8

お世話の
時間が
長時間化



■ お世話をしている子どもの世帯状況と健康状態について

分析の ポイント

5

お世話をしている高校生世代の世帯状況や小学生・中学生・高校生世代の健康状態に着目することで、「お世話をしている子ども」を発見するきっかけや手がかりをつかむ可能性がある為、注意深く見守る必要がある。

「お世話をしている」と回答した場合と「お世話をしていない」と回答した場合を比べて、高校生世代は「お世話をしている」と回答した場合、三世帯家庭(6.9%)とひとり親家庭(13.8%)の割合が「お世話をしていない」と回答した場合に比べて高く、二世帯家庭(69.0%)の割合は、「お世話をしていない」と回答した場合に比べて低くなっている為、高校生世代は家庭の世帯状況が、子どものお世話の有無に影響を及ぼしている可能性がある。(図表5-A)

また、「お世話をしている」と回答した場合、小学生・中学生・高校生世代においては健康状態が「よくない」(小学生0.7%・中学生1.3%・高校生世代6.9%)、「あまりよくない」(小学生3.9%・中学生7.2%・高校生世代13.8%)の割合が高く、家族の「お世話をしていない」場合に比べ、健康状態に影響が出ている可能性があり、子どもの健康状態に着目することで「お世話をしている子ども」を発見する手がかりとなる可能性も推察できる。(図表5-B)

■図表5-A お世話をしている家族の有無による世帯状況の割合(単位:%)

	家族のお世話	n	二世帯家庭	三世帯家庭	ひとり親家庭	その他	未回答
小学生	いる	407	82.6	5.7	8.6	2.5	0.7
	いない	1,944	83.6	5.6	9.9	0.7	0.2
中学生	いる	152	80.3	5.3	10.5	2.0	2.0
	いない	2,459	81.4	6.8	11.2	0.4	0.1
高校生世代	いる	29	69.0	6.9	13.8	6.9	3.4
	いない	607	81.1	5.9	12.0	0.7	0.3

■図表5-B お世話をしている家族の有無による体調についての割合(単位:%)

	家族のお世話	n	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	未回答
小学生	いる	407	58.2	22.9	13.5	3.9	0.7	0.7
	いない	1,944	60.7	19.1	15.8	3.3	0.6	0.5
中学生	いる	152	42.1	28.3	19.7	7.2	1.3	1.3
	いない	2,459	46.2	25.5	22.3	5.2	0.7	0.1
高校生世代	いる	29	27.6	27.6	20.7	13.8	6.9	3.4
	いない	607	53.4	22.7	17.0	6.4	0.2	0.3

■ 学校・職場への「出欠」「遅刻」「早退」への影響について

分析の ポイント

6

「お世話をしている」と回答した場合、「お世話をしていない」と回答した場合に比べ、学校・職場への「出欠」「遅刻」「早退」の状況に影響が出ている可能性がある。

「お世話をしている」と回答した場合、「お世話をしていない」と回答した場合に比べ、小学生・中学生・高校生世代において学校を「たまに休む」（小学生25.3%・中学生19.7%・高校生世代34.5%）「たまに遅刻することがある」（小学生17.9%・中学生21.1%）「たまに早退することがある」（小学生12.8%・中学生17.1%・高校生世代17.2%）の割合が高くなっており、学校や職場の生活に影響が出ている可能性があるかと推察できる。また、高校生世代はよく休む（10.3%）よく遅刻する（24.1%）よく早退する（6.9%）の割合も高くなっており、よりお世話の影響が出ている可能性が高い。（図表6-A～C）

■図表6-A

家族のお世話の有無による
出欠への影響の割合
(単位:%)

	家族のお世話	n	ほとんど休まない	たまに休む	よく休む	未回答
小学生	いる	407	73.7	25.3	1.0	0.0
	いない	1,944	78.4	19.8	1.6	0.2
中学生	いる	152	77.0	19.7	2.0	1.3
	いない	2,459	83.6	14.6	1.7	0.2
高校生世代	いる	29	51.7	34.5	10.3	3.4
	いない	607	78.4	17.5	3.8	0.3

■図表6-B

家族のお世話の有無による
遅刻への影響の割合
(単位:%)

	家族のお世話	n	ほとんど遅刻することがない	たまに遅刻することがある	よく遅刻する	未回答
小学生	いる	407	78.4	17.9	3.4	0.2
	いない	1,944	79.1	16.4	4.0	0.6
中学生	いる	152	74.3	21.1	2.6	2.0
	いない	2,459	82.0	14.8	3.0	0.2
高校生世代	いる	29	55.2	17.2	24.1	3.4
	いない	607	77.1	17.3	4.9	0.7

■図表6-C

家族のお世話の有無による
早退への影響の割合
(単位:%)

	家族のお世話	n	ほとんど早退することがない	たまに早退することがある	よく早退する	未回答
小学生	いる	407	86.2	12.8	0.5	0.5
	いない	1,944	90.7	8.3	0.6	0.3
中学生	いる	152	80.3	17.1	1.3	1.3
	いない	2,459	91.0	8.3	0.5	0.2
高校生世代	いる	29	72.4	17.2	6.9	3.4
	いない	607	90.9	7.4	0.8	0.8

■ お世話をしている子どもの学校や職場での生活への影響について

分析の ポイント

7

「お世話をしている」と回答した場合、「お世話をしていない」と回答した場合に比べて、全ての世代で学校や職場での生活への様々な影響がでている可能性が高く、特に忘れ物や提出物を出すのが遅れることが多い子どもが多い。

「お世話をしている」と回答した場合、「お世話をしていない」と回答した場合に比べて、学校や職場での生活への影響について、小学生・中学生・高校生世代の全ての世代で全体的に回答人数の割合が高い傾向にあり、様々な影響がでている可能性が高いと推察できる。

その中でも特に、小学生・中学生・高校生世代の全ての世代において、学校や職場での生活において「持ち物の忘れ物が多い」（小学生28.0%・中学生34.2%・高校生世代24.1%）「提出物を出すのが遅れることが多い」（小学生21.9%・中学生40.8%・高校生世代37.9%）「部活動や塾、習い事、クラブ活動等を休むことが多い」（小学生5.7%・中学生11.2%・高校生世代10.3%）等の割合が高くなっている。

また、小学生・高校生世代では「宿題や課題ができていないことが多い」（小学生15.5%・高校生世代27.6%）、高校生世代では「授業中・仕事中に寝てしまうことが多い」（高校生世代41.4%）の割合も高くなっている。

こうした学校や職場での生活状況がみられる子どもは「家族のお世話をしている」可能性があり、その子どもが「ヤングケアラー」である可能性を含めて、大人が注意深く見守る必要がある。（図表7-A）

■図表7-A 家族のお世達の有無による学校や職場での生活への影響についての割合(単位:%)

	家族のお世話	n	授業中・仕事中に寝てしまうことが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や塾、習い事、クラブ活動等を休むことが多い	提出物を出すのが遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室・健康相談室で過ごすことが多い	学校・職場では1人で過ごすことが多い	友だちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	未回答
小学生	いる	407	3.7	15.5	28.0	5.7	21.9	1.5	4.2	7.9	7.6	55.5	1.2
	いない	1,944	3.5	10.9	22.9	2.3	18.3	0.7	1.4	5.9	5.8	61.5	1.9
中学生	いる	152	17.1	21.7	34.2	11.2	40.8	1.3	1.3	7.2	7.2	34.9	5.3
	いない	2,459	22.1	23.1	26.9	7.0	33.3	0.6	0.6	6.4	5.7	43.4	2.3
高校生世代	いる	29	41.4	27.6	24.1	10.3	37.9	0.0	0.0	13.8	17.2	27.6	6.9
	いない	607	35.4	16.5	18.0	7.6	16.6	3.0	3.0	8.9	11.5	39.5	3.8

■ お世話をしている子どもの悩みや困りごとについて

分析の ポイント

8

「お世話をしている」と回答した場合、「お世話をしていない」と回答した場合に比べて、小学生と中学生は「普段の生活における悩み事」、高校生世代は「将来のこと」「経済面のこと」「人間関係に関すること」など多くの悩みを抱えていることがうかがえる。

「お世話をしている」と回答した場合、「お世話をしていない」と回答した場合に比べて、現在の悩みについて、小学生・中学生・高校生世代の全ての世代で全体的に回答人数の割合が高い傾向にあり、様々な悩みを抱えている可能性が高いと推察できる。その中でも、小学生においては「友達とのこと」(13.3%) 「進学のこと」(11.5%) 「習い事のこと、塾、クラブ活動のこと」(10.6%)、中学生においては「学校の成績のこと」(48.7%) 「進路のこと」(42.8%) 「友だちとのこと」(17.8%) などの割合が高くなっており、**普段の生活における悩み事**を抱えていることがうかがえる。高校生世代においては「進路のこと」(69.0%) 「学校の成績のこと」(34.5%) などの**将来のこと**、「生活にかかるお金のこと」(44.8%) 「学校でかかるお金のこと」(37.9%) などの**経済面のこと**や「自分と家族の関係のこと」(37.9%) 「友だちとのこと」(24.1%)等の**人間関係に関すること**の割合が高くなっており、普段の生活における悩み事の他にも多くの悩みを抱えていることがうかがえる。(図表8-AとB)

■図表8-A 小学生の家族のお世話の有無による悩みや困りごとの割合(単位:%)

	家族のお世話	n	友だちとのこと	学校の成績のこと	進学のこと	習い事のこと、塾、クラブ活動のこと	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	自分のために使える時間が少ない	その他	とくはない	未回答
小学生	いる	407	13.3	8.1	11.5	10.6	8.6	5.2	8.8	3.9	60.7	3.7
	いない	1,944	12.2	7.5	9.6	9.4	5.1	3.3	5.2	3.0	67.6	3.5

■図表8-B 中学生と高校生世代の家族のお世話の有無による悩みや困りごとの割合(単位:%)

	家族のお世話	n	友だちとのこと	学校の成績のこと	進路のこと	クラブ活動、部活動のこと	塾、習い事のこと	生活にかかるお金のこと	学校でかかるお金のこと	自分と家族の関係のこと	自分以外の家庭内の人間関係のこと	病気や障害のある家族のこと	自分のために使える時間が少ない	その他	特はない	未回答
中学生	いる	152	17.8	48.7	42.8	10.5	9.2	10.5	6.6	11.2	5.3	3.3	8.6	2.0	35.5	5.3
	いない	2,459	13.8	45.1	36.7	9.9	10.2	5.0	2.6	6.6	3.2	1.3	4.2	2.6	39.7	2.8
高校生世代	いる	29	24.1	34.5	69.0	20.7	10.3	44.8	37.9	37.9	10.3	13.8	13.8	3.4	10.3	0.0
	いない	607	16.1	17.0	58.6	11.9	6.1	13.7	11.5	7.4	4.3	2.5	7.2	2.6	28.7	1.5

■ おわりに

中野区ヤングケアラー実態調査の特徴

本調査は、中野区の「ヤングケアラー」と思われる子どもをより正確に把握するため、小学生・中学生・高校生世代に対して幅広く実態調査を実施した。

結果として、区の状況把握や現状の「ヤングケアラー」に対する認知度、課題などの傾向も捉えることができた。

「ヤングケアラー」への理解と子どもに寄り添った支援の充実にむけて

こども家庭庁が定義する条件設定を参考に分析した結果「ヤングケアラーと思われる子ども」は小学4年生～高校生世代の調査対象全体の5.0%（281人）、その中でも家族のお世話により日常生活に影響がでている「何らかの影響が出ていて、支援が急がれる子ども」は1.4%（82人）と推定された。

この結果から本区においても一定数の「ヤングケアラー」が存在しており、特に支援が急がれる子どもへの支援は急務であるといえる。

またアンケート調査の自由意見では、「このアンケート調査でヤングケアラーについて初めて知った」「ヤングケアラーについてよくわかった」という意見もあり、本調査が「ヤングケアラー」の認知度向上につながったといえるが、中学生の約半分、高校生世代の約4分の1が「ヤングケアラー」という言葉を知らない結果となった為、言葉や定義について普及啓発の拡大が必要である。

また自由意見では、ヤングケアラーに必要だと思う支援について「相談体制の充実、相談しやすい・話しやすい環境づくり」「子どもたちの意見を伝えられる環境づくり、意思の尊重・声かけ」などの子どもが自分の事を話しやすい環境面や、「学校におけるサポートや配慮」「周囲の大人の理解や寄り添い」などの大人による子どもに対する見守り、また「お世話をしてくれる各種施設の充実」「物品支援や金銭面でのサポート」「子どもに自由な時間を与えるための制度や支援の充実」についてなど、子どもの目線からも幅広く意見があった。

これらの意見を活かして、周囲の大人が子どもに権利があることを理解し、子どもに寄り添い、子どもの目線に立った具体的な支援を考えることが必要である。

中野区 ヤングケアラー実態調査（子どもの生活についてのアンケート）報告書
令和6（2024）年3月

発行 / 中野区
担当 / 中野区地域支えあい推進部 地域包括ケア推進課
電話 / 03-3228-5803
メール / houkatukea@city.tokyo-nakano.lg.jp